

令和8年度（2026年度）

# 履 修 の 手 引

新潟大学理学部

## 目 次

1	入学にあたって -----	1
2	新潟大学理学部規程 -----	3
3	新潟大学における授業科目の区分等に関する規則 -----	18
4	履修の心得 -----	20
5	Sコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立てに関する留意事項 -----	27
6	教育職員免許状の取得について -----	28
7	学芸員の資格取得について -----	34
8	地球環境フィールドプランナー養成コースについて -----	35
9	全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）について -----	36
10	理学部の組織 -----	37
11	大学院の組織 -----	37
12	自然科学系の大学院の構成 -----	38
13	教授会 -----	39
14	事務 -----	39
15	理学部学位プログラム関係教員一覧 -----	40
16	理学部講義室等案内図 -----	41
17	理学部周辺案内図 -----	46



# 1. 入学にあたって

## I 学部長あいさつ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新潟大学理学部は、皆さんを心から歓迎いたします。今日から始まる大学生活が、皆さんにとって実り豊かで、かけがえのない時間となることを願っています。大学での学びは、高等学校までとは大きく異なり、様々なことを自分で考え、自分で選び、自分で行動していかなければなりません。大学での学習もその一つです。自分の将来を見据えて、何を学び実行していきたいのか、自分自身で決めることとなります。卒業するときには、この大学での学びを通じて、自分の力で未来を切り開いていける人へと成長していることを期待しています。

この「履修の手引き」は、理学部での学修を進めるうえで欠かせない案内書です。最初は少し難しく感じるかもしれませんが、在学中ずっと皆さんを支える“ガイド”となるものです。ぜひ繰り返し読み、内容を理解して活用してください。分からないことがあれば、一人で悩む必要はありません。クラス主任・副主任、プログラム相談員、学務係など、相談できる相手はたくさんいます。どうか遠慮せずに声をかけてください。皆さんが自分らしい学修計画を立て、充実した学生生活を送れるよう、この手引きをぜひ積極的に役立ててください。

さて、理学部は、「真理を探究したい」という好奇心を出発点に、基礎科学を学び、数理・自然科学における仕組みや成り立ちについて研究する学部です。ミクロな世界から宇宙まで—その対象は実に多彩です。また、理学の研究によって得られた新しい知識や概念、理論は、情報技術、先端技術、新素材の開発、生命や医療、環境保全など、現代社会のあらゆる分野の発展を支えています。専門分野を深めるだけでなく、幅広い学問に触れることは、新しい視点や可能性を切り拓く力にもなります。ぜひ大学で、多様な知と出会ってください。

本学には、分野横断的に学べる「全学分野横断創生（NICE）プログラム」があります。所属する学部の専門（メジャー）に加え、関心に応じて他の分野をマイナーとして学ぶことができ、多角的な視点を養う絶好の機会となります。社会の複雑な課題と向き合うためにも、積極的に活用してみてください。また近年、AIをはじめとする技術は社会のあらゆる場面で不可欠になっています。本学でもIT・データサイエンス教育に力を入れていますので、これからの時代を生きる力として、ぜひ身につけてください。

理学部では専門教育だけでなく、キャリア教育も重視しています。インターンシップ科目に加え、「科学・技術と社会」や理学部コロキウムなど、企業の技術者や卒業生から直接学べる機会を設けています。こうした学びは、自分の専門が社会とどうつながるのかを知る貴重な体験となるでしょう。卒業生の多くは大学院へ進学しますが、大学院修了後の進路を見据えるうえでも、こうした機会を大いに活用してほしいと願っています。

皆さんはこれから、大学で多くの挑戦と出会いを経験します。成功もあれば、うまく行かないこともあるでしょう。私たち教職員一同は、皆さんが自分の可能性を広げ、輝かしい未来へと歩んでいけるよう、全力で支えていきます。新たな学びの旅路を、存分に楽しんでください。

理学部長 高澤 栄 一

## II 理学部の3つのポリシーについて

理学部では、以下の教育理念・目標に基づき、3つのポリシーを策定しております。

### <教育理念・目標>

新潟大学理学部は、自然界の構造と仕組みについて真理を探究する基礎科学研究を推進するとともに、社会から要請される広い応用分野に基礎学問領域から貢献することを目指します。本学部は、次のような施策に基づき、科学技術の基盤となる理論と方法の創出を担う人材と、基礎科学を基盤にして現代社会が直面している多様な課題に対応できる人材を育成し、社会に送り出すことを教育目標とします。

- 1.理学の各分野における系統的・段階的な講義履修体系の編成
- 2.理学の複数分野を横断する学修目標に基づいた講義履修体系の編成
- 3.理学の共通基盤形成に必要な演習・実習科目の設置
- 4.課題解決力の育成を目的としたアクティブ・ラーニング科目の設置
- 5.社会との連携を重視したインターンシップの推進
- 6.学生の進路意識の向上を図るキャリア教育の推進
- 7.コミュニケーション力育成を重視した国際交流の推進

3つのポリシーとは、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）のことです。

ディプロマ・ポリシーは、その教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものです。

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーを達成するために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

アドミッション・ポリシーとは、当該大学・学部等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果を示すものです。

理学部では、学位プログラムごとに3つのポリシーを定めております。詳しくは、大学のホームページを参照してください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/faculty/science/threepolicies-f/>



## 2. 新潟大学理学部規程

(趣旨)

第1条 新潟大学理学部（以下「本学部」という。）の教育課程の編成，学生の履修方法，卒業の要件等に関し必要な事項については，新潟大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）に定めるもののほか，この規程の定めるところによる。

(本学部の教育研究の目的)

第1条の2 本学部は，数学と自然科学の基礎研究に基づき，基礎的な専門知識と深い教養を備え，課題探求能力と総合的判断力及び国際性，社会性を身につけた人材を育成することを目的とする。

(学科)

第2条 本学部に，理学科を置く。

(学位プログラム)

第3条 理学科に，次の学位プログラムを設ける。

数学プログラム

物理学プログラム

化学プログラム

生物学プログラム

地質科学プログラム

自然環境科学プログラム

フィールド科学人材育成プログラム

2 数学プログラム，物理学プログラム，化学プログラム，生物学プログラム及び地質科学プログラムは，各プログラムの専門科目を体系的に学修することによって課題解決能力を育成する履修体系の専門力プログラム（以下「専門力プログラム」という。）と，プログラムの専門科目と関連する他プログラムの専門科目を組み合わせることで学修することによって課題解決能力を育成する履修体系の総合力プログラムにより教育を行う。

3 自然環境科学プログラムは，専門力プログラムにより教育を行う。

4 フィールド科学人材育成プログラムは，プログラムの専門科目を体系的に学修することによってフィールドに関連する諸問題に対する実践的課題解決能力を育成する履修体系により教育を行う。

5 18ヶ月以上在学し，別に定める学位プログラム選択要件を満たした学生は，第1項の学位プログラムのうちのいずれか一つを選択するものとする。

6 学生が所属する学位プログラムの決定方法は，別に定める。

(教育課程)

第4条 本学部の教育課程は，教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目により編成するものとする。

2 専門教育に関する授業科目は，必修科目，選択科目及び自由科目に分ける。

(履修方法)

第5条 学生は，別表第1の定めるところにより，教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目について，124単位以上を修得しなければならない。

2 別表第1に規定する教養教育に関する授業科目の科目区分等及びその科目区分等に基づく授業科目は，新潟大学における授業科目の区分等に関する規則（平成16年規則第38号。以下「授業科目の区分等規則」という。）の定めるところによる。

3 外国人留学生等が，授業科目の区分等規則別表に規定する科目区分の，留学生基本科目に属する授業科目を履修し，その単位を修得したときは，日本語の授業科目については4単位までを英語又は初修外

国語に属する一つの外国語の授業科目の単位に、日本事情の授業科目については4単位までを自然科学又は人文社会・教育科学に属する授業科目の単位に代えることができる。

4 別表第1に規定する専門教育に関する授業科目及びその単位数は、別表第2に定めるところによる。  
(履修手続)

第6条 学生は、学期の始めに履修しようとする授業科目を選択し、その授業科目の担当教員の承認を得なければならない。

2 学生が各学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。  
(授業科目の修了の認定及び評価)

第7条 授業科目の修了の認定及び評価は、授業科目の区分等規則の定めるところによる。

2 授業科目の修了の認定は、試験により行うことを原則とし、出席状況、平常の学習状況その他を加味することができるものとする。

3 前項の規定にかかわらず、実験、実習及び実技に係る授業科目については、平常の学習状況の評価をもって試験に代えることができる。  
(試験)

第8条 前条第2項に規定する試験は、学期末又は試験の対象となる授業科目が開講されるターム末(以下「学期末等」という。)に行うものとする。ただし、不定期に開設する授業科目及び特別の事情により学期末等に試験を行うことができない授業科目については、この限りでない。

2 試験における不正行為により懲戒処分を受けた学生に対しては、不正行為を行った科目は不合格(0点)とし、それ以外の当該学期の履修登録科目は、すべて履修取消とする。

(追試験)

第9条 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができない学生については、本人の願い出により、追試験を行うことができる。

2 前項の追試験の願い出、評価等については、別に定める。

(再試験)

第10条 教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目について、卒年次学生で1科目(外国人留学生等である場合は2科目)不合格のため、卒業できない学生については本人の願い出により、再試験を行うことができる。

(教員の免許状)

第11条 本学部において、取得することができる教員の免許状の種類及び免許教科は、次の表に掲げるとおりとする。

学科	教員の免許状の種類(免許教科)
理学科	中学校教諭1種免許状(数学, 理科) 高等学校教諭1種免許状(数学, 理科)

(卒業)

第12条 本学部に通算4年以上在学し、かつ、第5条第1項に規定する所定の単位を修得した学生の卒業の認定は、教授会の議を経て、学長が行う。

(編入学及び再入学)

第13条 学則第62条第1項及び第2項並びに第63条の規定による編入学又は再入学を志願する者に対する選考については、別に定める。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した単位の取扱い及び在学期間の通算の認定については、教授会が行う。

(転部及び転入学)

第14条 学則第64条の規定による転部又は転入学を志願する者に対する選考については、別に定める。

2 前項の規定により転部又は転入学を許可された者の既に修得した単位の取扱い及び在学期間の通算の認定については、教授会が行う。

(転プログラム)

第15条 本学部の学生で他の学位プログラムに転プログラムを願い出る者に対する選考については、別に定める。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、教授会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 数学科、物理学科、化学科、生物学科、地質科学科及び自然環境科学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 平成28年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお、従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお、従前の例による。ただし、施行の日に現に理学科に在籍する学生は、同表に規定する授業科目のうち「情報産業論」及び「情報社会論」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお、従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお、従前の例による。ただし、施行の日に現に理学科に在籍する学生は、改正後の別表第1に規定する「教養教育に関する授業科目」の科目区分「大学学習法」に区分される授業科目及び改正後の別表第2に規定する授業科目のうち「フィールド惑星科学概論」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお従前の例による。ただし、施行の日に現に理学科に在籍する学生は、改正後の別表第2に規定する授業科目のうち「地球環境の多様性と歴史」、「国際フィールド科学演習」、「フィールド企業インターンシップ」、「海外フィールド実習A」及び「海外フィールド実習B」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお従前の例による。ただし、施行の日に現に理学科に在籍する学生は、改正後の別表第1に規定する「教養教育に関する授業科目」の科目区分「初修外国語」のうち細区分「グローバル理解」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。また、令和4年度以降に入学した学生は、改正後の別表第2に規定する授業科目のうち「環境政策論b」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 令和6年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお従前の例による。ただし、施行の日に現に理学科に在籍する学生は、改正後の別表第2に規程する授業科目のうち「科学と社会」を履修し、卒業に必要な単位とすることができる。

附 則

- 1 この規程は、令和7年6月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和8年4月1日から施行する。
- 2 令和7年度以前に入学した学生の履修方法及び卒業要件については、なお従前の例による。

別表第1 (第5条関係)  
専門カリプログラム

分類	科目区分	細区分又は授業科目名等	数学プログラム		物理学プログラム		化学プログラム		生物学プログラム		地質科学プログラム		自然環境科学プログラム	
			必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
教養教育に関する授業科目	英語	英語	2	21	2	21	2	21	2	21	2	21	2	21
		グローバル理解												
		ドイツ語												
		フランス語												
		ロシア語												
		中国語												
		朝鮮語												
		スペイン語												
		イタリア語												
		外国語スペシヤル												
		体育講義												
		体育実技												
		情報リテラシー	2	7	2	7	2	7	2	7	2	7	2	7
		情報処理解論												
		地域入門												
		新潟大学 個性化科目												
		人文社会・ 教育人間科学 法学	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		経済学												
		理学												
		工学												
農学														
医学														
歯学														
薬学														
芸術学														
外国語学														
国際関係学														
社会学														
政治学														
心理学														
教育学														
歴史学														
地理学														
環境学														
天文学														
宇宙学														
物理学														
化学														
生物学														
地学														
理学基礎演習	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4		
基礎実習科目														
理学部共通コア科目 (学位プログラムコア科目)	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30		
学位プログラム専門科目	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30		
理学部共通コア科目 (他学位プログラムコア科目)														
他学位プログラム専門科目														
小計		84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84		
教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから		19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		
合計		124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124		
専門教育に関する授業科目		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
数学・統計学	4													
物理学														
化学														
生物学														
地学														
理学基礎演習	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4		
基礎実習科目														
理学部共通コア科目 (学位プログラムコア科目)	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30		
学位プログラム専門科目	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30	14	30		
理学部共通コア科目 (他学位プログラムコア科目)														
他学位プログラム専門科目														
小計		84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84		
教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから		19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		
合計		124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124		

総合カテゴリープログラム

分類	科目区分	細区分又は授業科目名等	数学プログラム		物理学プログラム		化学プログラム		生物学プログラム		地質科学プログラム	
			必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
教養教育に関する授業科目	英語	英語	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	グローバル理解	グローバル理解										
	ドイツ語	ドイツ語										
	フランス語	フランス語										
	ロシア語	ロシア語										
	中国語	中国語										
	朝鮮語	朝鮮語										
	スペイン語	スペイン語										
	イタリア語	イタリア語										
	外国語スペシヤル	外国語スペシヤル										
	体育講義	体育講義										
	健康・スポーツ	健康・スポーツ										
	情報リテラシー	情報リテラシー	2		2		2		2		2	
	情報処理概論	情報処理概論										
	地域入門	地域入門										
	新潟大学 地域研究	新潟大学 地域研究										
	個性化科目	個性化科目										
	自由主題	自由主題										
	人文社会・教育科学	教育人間科学	8		8		8		8		8	
	法学	法学										
	経済学	経済学										
理学	理学											
工学	工学											
農学	農学											
医学	医学											
歯学	歯学											
大学学習法	大学学習法											
小計	小計	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	
大学学習法	理学スタディ・スキルズ	2		2		2		2		2		
数学・統計学	数学・統計学											
物理学	物理学											
化学	化学	12		4		8		2		2		
生物学	生物学											
地学	地学											
理学基礎演習	理学基礎演習	2		2		2		2		2		
理学部共通ベーシック科目	理学部共通ベーシック科目	2		2		2		2		2		
基礎実習科目	基礎実習科目											
小計	小計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
理学部共通コア科目 (学位プログラムコア科目)	理学部共通コア科目 (学位プログラムコア科目)	14		8		8		8		8		
学位プログラム専門科目	学位プログラム専門科目	14	20	8	6	22	10	17	14	31	7	
理学部共通コア科目 (他学位プログラムコア科目)	理学部共通コア科目 (他学位プログラムコア科目)	4		4		4		4		4		
他学位プログラム専門科目	他学位プログラム専門科目		8		8		8		8		8	
小計	小計	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	
教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから	教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	
合計	合計	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	

注) 1. 「基礎実習科目」においては、複数分野の科目の単位を取得すること。

ワールド科学人材養成プログラム

分類	科目区分	細区分又は授業科目名等	必修科目	選択科目	計
グローバル理解	グローバル理解				
ドイツ語	ドイツ語				
フランス語	フランス語				
ロシア語	ロシア語				
中国語	中国語				
朝鮮語	朝鮮語				
スペイン語	スペイン語				
イタリア語	イタリア語				
外国語スペシヤル	外国語スペシヤル				
体育講義	体育講義				
健康・スポーツ	健康・スポーツ				
情報リテラシー	情報リテラシー	2		2	
情報処理概論	情報処理概論				
地域入門	地域入門				
新潟大学 地域研究	新潟大学 地域研究				
個性化科目	個性化科目				
自由主題	自由主題				
人文社会・教育科学	教育人間科学	8		8	
法学	法学				
経済学	経済学				
理学	理学				
工学	工学				
農学	農学				
医学	医学				
歯学	歯学				
大学学習法	大学学習法				
小計	小計	21	21	21	21
大学学習法	理学スタディ・スキルズ	2		2	
数学・統計学	数学・統計学				
物理学	物理学				
化学	化学	12		4	
生物学	生物学				
地学	地学				
理学基礎演習	理学基礎演習	2		2	
理学部共通ベーシック科目	理学部共通ベーシック科目	2		2	
基礎実習科目	基礎実習科目				
小計	小計	4	4	4	4
理学部共通コア科目	理学部共通コア科目	14		8	
学位プログラム専門科目	学位プログラム専門科目	14	20	31	7
他学位プログラム専門科目	他学位プログラム専門科目	4		4	
小計	小計	84	84	84	84
教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから	教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目のうちから	19	19	19	19
合計	合計	124	124	124	124

別表第2 (第5条関係)

● : 学位プログラム必修科目 ○ : 学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印 : 他学位プログラム選択科目 △ : 自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	プログラム		プログラム		プログラム		プログラム		プログラム		備考
			数学	物理	化学	生物	地質	自然環境	サイエンス				
専門教育に関する授業科目	大学学習法	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	自然系共通専門基礎科目												
	解析学基礎1	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	自然環境科学プログラムは、数学基礎A1 1単位かつ数学基礎A2 1単位の2単位、または数学基礎B1 1単位かつ数学基礎B2 1単位の2単位を選択  生物学プログラムは、※1に従う。地質科学プログラムは※2に従う  全プログラムは、※3に従う。物理学プログラム総合力は、※4に従う  生物学プログラムと自然環境科学プログラムは、※5に従う
	解析学基礎2	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学基礎A1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学基礎A2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学基礎B1	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学基礎B2	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	統計学基礎1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	統計学基礎2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎AI	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎AII	2	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎BI	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎BII	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学概論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎CI	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学基礎CII	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	化学基礎A	2	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	
	化学基礎B	2	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	
	生物学基礎A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
生物学基礎B	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
地学基礎A	2	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○		
地学基礎B	2	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○		
地学基礎C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
理学部共通ベーシック科目	理学基礎演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	基礎実習科目												
	数学分野	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	物理学プログラムと自然環境科学プログラムは、2単位中1単位以上選択
	物理学分野	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	化学分野	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	化学プログラム総合力と自然環境科学プログラムは、2単位中1単位以上選択
	生物学分野	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	地学分野	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	自然環境科学プログラムは、2単位中1単位以上選択
	基礎英語コミュニケーション	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	実践英語コミュニケーション	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海外研修	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海外英語研修	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	安全教育	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学・技術と社会	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学史	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	新素材の物性	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	情報産業論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	情報社会論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SDGsを支える化学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	インターンシップ特別実習a	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	インターンシップ特別実習b	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地球環境の多様性と歴史	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
国際フィールド科学演習	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
フィールド企業インターンシップ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海外フィールド実習A	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
海外フィールド実習B	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
科学と社会	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	プログラム		物理学		化学		生物学		地質科学		自然環境科学	フィールド科学	備考
			専攻	総合	専攻	総合	専攻	総合	専攻	総合	専攻	総合	専攻		
理学部 共通コア科目	理学部開設科目														
	微分積分学IA	1	●	●											
	線形代数IA	1	●	●											
	数学演習A	1	●	●											
	集合と写像	1	○	○											
	微分積分学IB	1	●	●											
	線形代数IB	1	●	●											
	数学演習B	1	●	●											
	オペレーションズ・リサーチ	2	○	○											
	微分積分学IIA	2	●	●											
	線形代数IIA	2	●	●											
	計算機演習A	1	○	○											
	微分積分学IIB	2	●	●											
	線形代数IIB	2	●	●											
	計算機演習B	1	○	○											
	解析力学	2			○	○									
	基礎物理数学	2			○	○									
	基礎ベクトル解析	2			○	○									
	分析化学I	2					○	○					○	○	
	無機化学I	2					○	○					○	○	
	有機化学I	2					○	○					○	○	
	化学熱力学	2					○	○					○	○	
	生体分子化学I	2					○	○					○	○	
	基礎細胞遺伝学	2							●	●			○	○	
	基礎細胞生物学	2							●	●			○	○	
	基礎植物学	2							●	●			○	○	
	基礎生物化学	2							●	●			○	○	
	地質学入門a	1									●	●			
	地質学入門b	1									●	●			
	フィールド体験実習	1									○	○			
	構造地質学入門	1									●	●			
	地層・古生物学入門	2									●	●			
鉱物・岩石学入門	2									●	●				
環境地質学入門	1									●	●				
地学英語	1									●	●				
環境気象学	2											○	○		
基礎量子力学	2					○	○					○	○		
機能形態学	2							○	○			○	○		
多様性生物学B	2											○	○		
農学部 開設科目	環境砂防学	2										○	○		
	野生植物生態学	2										○	○		
	フィールド安全論	2										○	○		
数学プログラム 専門科目	理学部開設科目														
	解析学序論A	1	●	●											
	代数・幾何学序論A	1	●	●											
	集合と位相入門A	1	●	●											
	微分方程式論A	1	○	○											
	代数入門A	2	○	○											
	プログラミング概論A	1	○	○											
	解析学序論B	1	●	●											
	代数・幾何学序論B	1	●	●											
	集合と位相入門B	1	●	●											
	微分方程式論B	1	○	○											
	代数入門B	2	○	○											
	プログラミング概論B	1	○	○											
	実解析学A	2	○	○											
	位相空間論A	1	○	○											
	複素解析学IA	1	○	○											
	代数系IA	1	○	○											
	幾何学IA	2	○	○											
	最適化数学A	1	○	○											
	数理統計学IA	1	○	○											

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	プログラム		プログラム		プログラム		プログラム		備考
			専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	
	数値解析A	1	○	○							
	実解析学B	2	○	○							
	位相空間論B	1	○	○							
	複素解析学IB	1	○	○							
	代数系IB	1	○	○							
	幾何学IB	2	○	○							
	最適化数学B	1	○	○							
	数理統計学IB	1	○	○							
	数値解析B	1	○	○							
	複素解析学IIA	1	○	○							
	関数解析学A	1	○	○							
	代数系IIA	1	○	○							
	幾何学IIA	1	○	○							
	離散数学A	1	○	○							
	凸解析学A	1	○	○							
	数理統計学IIA	1	○	○							
	複素解析学IIB	1	○	○							
	関数解析学B	1	○	○							
	代数系IIB	1	○	○							
	幾何学IIB	1	○	○							
離散数学B	1	○	○								
凸解析学B	1	○	○								
数理統計学IIB	1	○	○								
数理解析特別講義	2	○	○								
代数・幾何特別講義	2	○	○								
応用数理特別講義	2	○	○								
数学講究	8	●	●								
理学部 プログラム 専門科目	課題研究I	4			●	●					
	課題研究II	4			●	●					
	基礎物理学演習A	1			○	○					物理学プログラム専門力は20単位中14単位以上選択、総合力は20単位中10単位以上選択
	基礎物理学演習B	1			○	○					
	電磁気学I	2			○	○					
	電磁気学II	2			○	○					
	物理学演習A	1			○	○					
	物理学演習B	1			○	○					
	物理学演習C	1			○	○					
	物理学演習D	1			○	○					
	現代物理学序論A	1			○	○					
	現代物理学序論B	1			○	○					
	振動論と微分方程式	2			○	○					
	複素解析	2			○	○					
	波動とフーリエ解析	2			○	○					
	熱力学	2			○	○					
	量子力学IA	2			○	○					
	量子力学IB	2			○	○					
	量子力学IIA	2			○	○					
	量子力学IIB	2			○	○					
	統計力学IA	2			○	○					
	統計力学IB	2			○	○					
	統計力学IIA	2			○	○					
	統計力学IIB	2			○	○					
物理学実験A	2			○	○						
物理学実験B	2			○	○						
物理学実験C	2			○	○						
物理学実験D	2			○	○						
計算物理学A	2			○	○						
計算物理学B	2			○	○						
電気力学	2			○	○						
特殊相対論A	1			○	○						
特殊相対論B	1			○	○						

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	学位プログラム		物理学		化学		生物学		地質科学		自然環境科学	フイールド 科学人材育成	備考	
			専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力			
	現代物理学セミナーA	2			○	○										
	現代物理学セミナーB	2			○	○										
	量子力学IIIA	1			○	○										
	量子力学IIIB	1			○	○										
	統計力学IIIA	1			○	○										
	統計力学IIIB	1			○	○										
	原子核物理学	2			○	○										
	物性物理学	2			○	○										
	一般相対論A	1			○	○										
	一般相対論B	1			○	○										
	素粒子物理学	2			○	○										
	宇宙物理学	2			○	○										
	物理学特論I	1			○	○										
	物理学特論II	1			○	○										
	物理学特論III	1			○	○										
	物理学特論IV	1			○	○										
	物理学特論V	1			○	○										
	物理学特論VI	1			○	○										
	工学部開設科目	電気回路	2			○	○									
		基礎電子回路	2			○	○									
		電子回路	2			○	○									
計測工学		2			○	○										
光応用工学		2			○	○										
流体工学I		2			○	○										
化学プログラム開設科目	無機化学II	2					○	○							化学プログラム専門力は6単位中4単位以上選択、総合力は6単位中2単位以上選択	
	有機化学II	2					○	○								
	化学統計力学I	2					○	○								
	分析化学実験	2					●	○								
	無機化学実験	2					●	○								
	有機化学実験	2					●	○								
	物理化学実験	2					●	○								
	生化学実験	2					●	○								
	無機化学演習	4					○	○								
	有機化学演習	4					○	○								
	物理化学演習	4					○	○								
	量子化学演習	4					○	○								
	生化学演習	4					○	○								
	溶液化学演習	4					○	○								
	課題研究 a	4					●	●								
	課題研究 b	4					●	●								
	分析化学II	2					○	○								
	無機化学III	2					○	○								
	有機化学III	2					○	○								
	有機化学IV	2					○	○								
量子化学	2					○	○					○				
化学統計力学II	2					○	○									
生体分子化学II	2					○	○									
生体分子化学III	2					○	○									
基礎機器分析	2					○	○									
有機機器分析	2					○	○									
化学英語	2					○	○									
化学コロキウム	1					○	○							化学プログラム専門力は23単位中18単位以上選択、総合力は23単位中10単位以上選択		

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	ブ数学プログラム		ブ物理学プログラム		ブ化学プログラム		ブ生物学プログラム		ブ地質科学プログラム		ブ自然環境科学プログラム	ブ科学人材育成プログラム	備考
			専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力		
生物学プログラム 理学部開設科目 生物学プログラム 専門科目	植物生理学	2							○	○					
	動物生理学I	2							○	○					
	系統動物学	2							○	○					
	生体情報学I	2							○	○					
	生体情報学II	2							○	○					
	発生生物学I	2							○	○					
	発生生物学II	2							○	○			○		自然環境科学プログラムは、※8に従う
	生物英語	2							●	●					
	分子生物学	2							○	○					
	細胞生物学I	2							○	○					
	生物化学(理)	2							○	○					
	細胞生物学II	2							○	○					
	動物生理学II	2							○	○					
	生物学実習I	2							●	●					
	生物学実習II	3							●	●					
	生物学実習III	3							●	●					
	生物学実習IV	3							●	●					
	臨海実習I	2							○	○					
	臨海実習III	1							○	○					
	臨海実習IV	1							○	○					※6
	生物学総合演習	4							●	●					
	生物学特論I	1							○	○					
	生物学特論II	1							○	○					
	生物学特論III	1							○	○					
	生物化学演習	4							○	○					
	細胞生物学演習	4							○	○					
発生生物学演習	4							○	○						
植物生理学演習	4							○	○						
内分泌学演習	4							○	○						
分子生物学演習	4							○	○						
多様性生物学演習	4							○	○						
課題研究I(生物学)	8							●	○						
課題研究II(生物学)	4							○	○					生物学プログラム総合力は、※7に従う	
地質科学プログラム 理学部開設科目 地質科学プログラム 専門科目	地質調査法I	2									●	●			
	地質調査法II	1									●	●			
	地質調査法実習I	2									●	●			
	地質調査法実習II	1									●	●			
	地質調査法実習III	1									●	●			
	岩石学A	1									●	●			
	岩石学実験I	1									●	●			
	テクトニクス	2									●	●			
	鉱物学A	1									●	●			
	地層学A	1									●	●			
	古生物学A	1									●	●			
	野外実習A	4									●	●			
	野外実習B	2									●	○			
	論文講読演習	1									○	○			
	課題研究(地質科学)	8									●	●			
	セミナー	2									●	●			
	岩石学B	1									○	○			
	岩石学C	1									○	○			
	海洋地質学A	1									○	○			
	海洋地質学B	1									○	○			
構造地質学	2									○	○				
地質構造解析法	1									○	○				
地球物理学	2									○	○			地質科学プログラム専門力は、9単位中5単位以上選択	

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	プログラム		プログラム		プログラム		プログラム		備考
			数学	物理	化学	生物	地質	自然環境	フィールド		
	地層学B	1						○	○		地質科学プログラム専門力は、11単位中5単位以上選択
	地史学A	1						○	○		
	地史学B	1						○	○		
	第四紀環境学	2						○	○		
	環境地質学	2						○	○		
	環境地質学実習	1						○	○		
	応用地質学実習	1						○	○		
	水文地質学	2						○	○		
	鉱物学B	1						○	○		
	鉱物学C	1						○	○		
	鉱物結晶学実験	1						○	○		
	岩石学実験II	1						○	○		
	固体地球化学A	1						○	○		
	固体地球化学B	1						○	○		
	地球化学分析法	1						○	○		
	古生物学B	1						○	○		
	古生物学実験	1						○	○		
	海洋生物学実験	1						○	○		
	水質科学分析法	1						○	○		
	石油地質学	1						●	●		
	土木地質学	1						●	●		
	技術者倫理	1						●	●		
	地球科学特別講義I	1						○	○	地質科学プログラムは2単位中1単位以上選択	
	地球科学特別講義II	1						○	○		
自然環境科学プログラム専門科目	理学部開設科目										自然環境科学プログラムは、※8に従う。
	自然環境科学総論	2								●	
	地形学	2								○	
	地球流体力学	2								○	
	海洋化学	2								○	
	天文学概論	2								○	
	フィールド惑星科学概論	2								○	
	生態学	2								○	
	多様性生物学a	1								○	
	多様性生物学c	1								○	
	寒冷地形学	2								○	
	エネルギー物質科学	2								○	
	環境汚染論	2								○	
	進化生物学a	1						○	○	○	
	進化生物学b	1						○	○	○	
	適応生物学	2								○	
	古環境学	2								○	
	環境経済システム論I	2								○	
	環境政策論a	1								○	
	環境政策論b	1								○	
	地形解析実習	2								○	
	気象解析実習	2								○	
	自然環境科学実験B1	2								○	
	自然環境科学実験B2	2								○	
	自然環境科学実験C2	2								○	
	自然環境科学特論A	1								○	
	自然環境科学特論B	1								○	
	自然環境科学特論C	1								○	
自然環境科学特論D	1								○		
数理演習	2								○		
環境生物学演習	2								○		
自然環境科学研究演習	1								○		
環境生物学野外実習A	1						○	○	○		
環境生物学野外実習B	1								○		
環境生物学野外実習C	1								○		
										○	自然環境科学プログラムは、※9に従う。
										○	

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	ブ数学プログラム		ブ物理学プログラム		ブ化学プログラム		ブ生物学プログラム		ブ地質科学プログラム		ブ自然環境科学プログラム	ブフィールド科学人材育成	備考
			専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力	総合力	専門力		
	地形フィールド実習	2											○	自然環境科学プログラムは、24単位中8単位選択（複数不可）	
	地質フィールド実習	2									○	○	○		
	課題研究(自然環境)A	8											○		
	課題研究(自然環境)B	8											○		
	課題研究(自然環境)C	8											○		
フィールド科学人材育成プログラム専門科目	理学部開設科目													フィールド科学人材育成プログラムは、※10に従う  フィールド科学人材育成プログラムは、※11に従う  フィールド科学人材育成プログラムは、※12に従う	
	卒業論文	8											●		
	生態学	2											○		
	地形学	2											○		
	系統動物学	2											○		
	環境経済システム論I	2											○		
	環境政策論a	1											○		
	環境物理学	2											○		
	環境汚染論	2											○		
	海洋化学	2											○		
	水圏生態学	2											○		
	寒冷地形学	2											○		
	古環境学	2											○		
	進化生物学b	1											○		
	フィールド惑星科学概論	2											○		
	多様性生物学a	1											○		
	多様性生物学c	1											○		
	環境地質学	2											○		
	水文地質学	2											○		
	臨海実習 I	2											○		
地形解析実習	2											○			
気象解析実習	2											○			
地形フィールド実習	2											○			
地質フィールド実習	2											○			
環境生物学野外実習A	1											○			
農学部開設科目	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	2											●	フィールド科学人材育成プログラムは、※10に従う  フィールド科学人材育成プログラムは、※11に従う	
	科学英語演習	2											●		
	野生動物生態学	2											○		
	流域環境GIS	2											○		
	森林環境論	2											○		
	森林再生学	2											○		
	森林保護学	2											○		
	環境リモートセンシング	1											○		
	測量学（農）	2											○		
	流域水文学	2											○		
	水環境工学	2											○		
	土環境工学	2											○		
	構造デザイン工学	2											○		
	環境統計学	2											○		
	生態遺伝学	1											○		
	温暖化メカニズム・影響学	2											○		
	斜面災害論	2											○		
	雪氷防災学	2											○		
	里地里山再生学	2											○		
	希少生物保全学	2											○		
フォレスター入門	2											○			
林木育種学	1											○			

●：学位プログラム必修科目 ○：学位プログラム選択科目

(理学部理学科)

無印：他学位プログラム選択科目 △：自由科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	ブ数 学 プログラム		ブ物 理 学 プログラム		ブ化 学 プログラム		ブ生 物 学 プログラム		ブ地 質 学 プログラム		ブ自 然 環 境 学 プログラム	ブ科 学 人 材 育 成 プログラム	備考
			専 門 力	総 合 力	専 門 力	総 合 力	専 門 力	総 合 力	専 門 力	総 合 力	専 門 力	専 門 力	専 門 力		
理学部理学科	野生動物生態学実習	3												○	フィールド科学人材育成プログラムは、※12に従う } ※13
	測量学実習（農）	2												○	
	GIS・リモートセンシング演習	2												○	
	防災系演習及び実習	3												○	
	自然再生学実習	2												○	
	災害・復興科学演習及び実習	2												○	
	公開森林実習	1												○	
	持続可能な森林管理演習及び実習	4												○	
工学部開設科目	河川工学	2											○	フィールド科学人材育成プログラムは、※11に従う	
他学位プログラム専門科目（共通）	工学部開設科目	無機化学	2												
	基礎無機化学	2													
	無機工業化学	2													
	無機合成化学	2													
	分析化学（工）	2													
	材料分析化学	2													
	高分子科学	2													
物質構造論	2														
教育学部開設科目	無機化学	2													
その他	臨海実習II	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	※14

### 自然系共通専門基礎科目

- ※1 生物学プログラムは、解析学基礎1 1単位かつ解析学基礎2 1単位の2単位、数学基礎A1 1単位かつ数学基礎A2 1単位の2単位、数学基礎B1 1単位かつ数学基礎B2 1単位の2単位、統計学基礎1 1単位かつ統計学基礎2 1単位の2単位から2単位以上選択。
- ※2 地質科学プログラムは、解析学基礎1 1単位、解析学基礎2 1単位、数学基礎A1 1単位、数学基礎A2 1単位、数学基礎B2 1単位、統計学基礎1 1単位、統計学基礎2 1単位から2単位以上選択。
- ※3 全プログラムは、物理学基礎AⅠ 2単位と物理学基礎BⅠ 2単位の両方の単位を取得しても2単位とする。また、物理学基礎AⅡ 2単位と物理学基礎BⅡ 2単位の両方の単位を取得しても2単位とする。
- ※4 物理学プログラム総合力は、物理学基礎AⅠ 2単位と物理学基礎BⅠ 2単位から2単位以上選択。また、物理学基礎AⅡ 2単位と物理学基礎BⅡ 2単位から2単位以上選択。
- ※5 生物学プログラムと自然環境科学プログラムは、物理学基礎AⅠ 2単位、物理学基礎AⅡ 2単位、物理学基礎BⅠ 2単位、物理学基礎BⅡ 2単位、物理学概論 2単位から2単位以上選択。

### 学位プログラム専門科目

- ※6 他大学の公開（臨海）実習の取得単位は2単位を上限として算入できる。取得した単位は、臨海実習Ⅲ、Ⅳ（それぞれ1単位）として単位認定する。
- ※7 生物学プログラム総合力は、課題研究Ⅰ 8単位と課題研究Ⅱ 4単位から8単位または4単位選択。
- ※8 自然環境科学プログラムは、天文学概論 2単位、無機化学Ⅰ 2単位、分析化学Ⅰ 2単位、海洋化学 2単位から4単位以上、環境気象学 2単位、基礎量子力学 2単位、地球流体力学 2単位、地形学 2単位、フィールド惑星科学概論 2単位から4単位以上、機能形態学 2単位、発生生物学Ⅱ 2単位、多様性生物学a 1単位、多様性生物学B 2単位、多様性生物学c 1単位、基礎細胞遺伝学 2単位、生態学 2単位から4単位以上選択。
- ※9 自然環境科学プログラムは、地形解析実習 2単位、気象解析実習 2単位、自然環境科学実験B1 2単位、自然環境科学実験B2 2単位、自然環境科学実験C2 2単位、環境生物学野外実習A 1単位、環境生物学野外実習B 1単位から6単位以上選択。ただし、自然環境科学実験B1 2単位、自然環境科学実験B2 2単位、環境生物学野外実習A 1単位、環境生物学野外実習B 1単位から4単位を上限とする。上限を超える単位は、6単位以上の要件として算入できないが、卒業に必要な学位プログラム専門科目の単位に算入することができる。
- ※10 フィールド科学人材育成プログラムは、分析化学Ⅰ 2単位、環境砂防学 2単位、生態学 2単位、地形学 2単位、系統動物学 2単位、野生植物生態学 2単位、野生動物生態学 2単位、流域環境GIS 2単位から10単位以上選択。

- ※11 フィールド科学人材育成プログラムは、環境経済システム論I 2単位、環境政策論a 1単位、環境物理学 2単位、環境汚染論 2単位、海洋化学 2単位、水圏生態学 2単位、寒冷地形学 2単位、古環境学 2単位、進化生物学b 1単位、フィールド惑星科学概論 2単位、多様性生物学a 1単位、多様性生物学B 2単位、多様性生物学c 1単位、環境地質学 2単位、水文地質学 2単位、森林環境論 2単位、森林再生学 2単位、森林保護学 2単位、環境リモートセンシング 1単位、測量学(農) 2単位、流域水文学 2単位、水環境工学 2単位、土環境工学 2単位、構造デザイン工学 2単位、環境統計学 2単位、生態遺伝学 1単位、温暖化メカニズム・影響学 2単位、斜面災害論 2単位、雪氷防災学 2単位、里地里山再生学 2単位、希少生物保全学 2単位、フォレスター入門 2単位、材木育種学 1単位、河川工学 2単位から24単位以上選択。
- ※12 フィールド科学人材育成プログラムは、臨海実習I 2単位、地形解析実習 2単位、気象解析実習 2単位、地形フィールド実習 2単位、地質フィールド実習 2単位、環境生物学野外実習A 1単位、野生動植物生態学実習 3単位、測量学実習(農) 2単位、GIS・リモートセンシング演習 2単位、防災系演習及び実習 3単位、自然再生学実習 2単位、災害・復興科学演習及び実習 2単位、公開森林実習 1単位、持続可能な森林管理演習及び実習 4単位から8単位以上選択。
- ※13 他大学の公開(森林)実習1単位分を上限として算入でき、公開森林実習1単位として単位認定する。

その他

- ※14 臨海実習IIの単位は卒業要件に含まれない。

### 3. 新潟大学における授業科目の区分等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、新潟大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第48条の規定に基づき、新潟大学（以下「本学」という。）の学士課程教育における授業科目の区分、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 本学の授業科目は、別表のとおり区分する。

2 各年度において開設する授業科目は、教育基盤機構（以下「機構」という。）が公示する授業科目開設一覧の定めるところによる。

3 授業科目には、学生の体系的な履修に資するため、学問分野及び水準を示すコードを付すものとする。

4 前項のコードは、機構において定めるものとする。

(学期の区分)

第3条 学則第37条第2項に規定する各学期を前半及び後半に分けた期間をタームという。

2 前項に規定するタームは、第1学期の前半を第1ターム、後半を第2ターム、第2学期の前半を第3ターム、後半を第4タームとする。

(授業科目の開講方式等)

第4条 授業科目は、原則としてタームにより開講する。

(授業科目の履修)

第5条 学生は、所属する学部が定める教育課程に基づき、機構が公示する授業科目を履修するものとする。

(授業科目の聴講の受付及び承認)

第6条 授業科目の聴講の受付及び承認は、その授業科目の担当教員が行う。

2 前項の聴講の受付及び承認は、各学期の授業開始後3週間以内に行うものとする。

(授業科目の修了の認定)

第7条 授業科目の修了の認定は、その授業科目の担当教員が行う。

2 授業科目の試験等において、不正行為を行った学生に対しては、新潟大学学生の懲戒に関する規程（平成27年規程第7号）に基づき、学長が必要な措置を講じるものとする。

(授業科目の評価)

第8条 授業科目の評価は、100点満点をもって評価し、60点以上の成績を得た学生を合格、59点以下の成績を得た学生を不合格とする。

2 前項の成績の評語及び基準は、次のとおりとする。

点数	評語	基準
100点～90点	秀	授業科目の目標を超えている。
89点～80点	優	授業科目の目標に十分達している。
79点～70点	良	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69点～60点	可	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59点～0点	不可	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

3 前項の規定にかかわらず、授業科目の成績において点数をもって評価できない場合は、「認定」又は「合格」の評語をもって評価することができる。

(授業科目の追試験)

第9条 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができない学生については、別に定めるところにより、追試験を行うことができる。

(授業科目の再試験)

第10条 授業科目の評価が不合格となった学生で、卒業又は進級できないものがある場合は、別に定めるところにより、再試験を行うことができる。

(成績評価の不服申立て)

第11条 学生は、成績評価が第8条第2項に規定する成績の評価基準に照らして不相当と考えるときは、不服を申立てることができる。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、授業科目の区分、履修方法等に関し必要な事項は、機構又は各学部が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 新潟大学全学共通科目の履修の基準に関する規則（平成16年規則第32号）は、廃止する。
- 3 平成16年度以前に入学し、現に在学している学生がこの規則により授業科目を履修した場合の全学共通科目又は教養科目（廃止前の新潟大学全学共通科目の履修の基準に関する規則に基づく全学共通科目又は教養科目をいう。）への読替えについては、機構において公示する。

附 則（平成22年3月31日規則第1号）この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月31日規則第3号）この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月9日規則第6号）この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（令和元年12月16日規則第24号）この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月31日規則第3号）この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和4年9月22日規則第21号）

- 1 この規則は、令和4年10月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に開設されている授業科目は、改正後の第2条第2項の規定により教育基盤機構が定めたものとみなす。

附 則

- 1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

別表(第2条関係)

授 業 科 目 区 分 表

科目区分	細区分
英語	英語 実践英語
初修外国語	グローバル理解 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 朝鮮語 スペイン語 イタリア語 外国語スペシャル その他
健康・スポーツ	体育実技 体育講義
情報リテラシー	情報リテラシー 情報処理概論
新潟大学個性化科目	地域入門 地域研究 自由主題
留学生基本科目	日本語 日本事情
大学学習法	大学学習法
自然系共通専門基礎	数学・統計学 物理学 化学 生物学 地学
自然科学	理学 工学 農学
人文社会・教育科学	人文科学 教育人間科学 法学 経済学
医歯学	医学 歯学

## 4. 履修の心得

理学部理学科では、学生が確かな学習成果を得られるように7つの学位プログラムを設け、「学位」の質を保証します。また、学位プログラム専門科目を体系的に学修することによって課題解決能力を育成する履修体系の専門力プログラムと、学位プログラム専門科目と関連する他学位プログラム専門科目を組み合わせることで学修することによって課題解決能力を育成する履修体系の総合力プログラムによって教育を行います。各学位プログラムと履修体系の名称は次のとおりです。

学位プログラムの名称	履修体系の名称	
	専門力プログラム	総合力プログラム
数学プログラム	数学プログラム専門力	数学プログラム総合力
物理学プログラム	物理学プログラム専門力	物理学プログラム総合力
化学プログラム	化学プログラム専門力	化学プログラム総合力
生物学プログラム	生物学プログラム専門力	生物学プログラム総合力
地質科学プログラム	地質科学プログラム専門力	地質科学プログラム総合力
自然環境科学プログラム	自然環境科学プログラム専門力	—
フィールド科学人材育成プログラム	フィールド科学人材育成プログラムでは、専門力プログラムや総合力プログラムと異なる、学位プログラム専門科目を体系的に学修することによってフィールドに関連する諸問題に対する実践的課題解決能力を育成する履修体系により教育を行います。	

理学部規程は、入学年度の規程が卒業するまで適用されますので、自分の適用規程を確認するときは入学年度の「履修の手引」を参照してください。

### I 教養教育に関する授業科目

本学部の教育課程は、「教養教育に関する授業科目」及び「専門教育に関する授業科目」により編成されています。「教養教育に関する授業科目」はその内容等に応じ、英語、初修外国語、健康・スポーツ、情報リテラシー、新潟大学個性化科目、人文社会・教育科学、自然科学、医歯学及び大学学習法に区分されており、幅広い教養を身に付けるための授業科目です。

なお、他学部の科目を修得した場合は、理学部では「教養教育に関する授業科目」とみなされます。ただし、理学部規程別表第2に定める科目は、他学部開設科目であっても「専門教育に関する授業科目」となります。

履修にあたっては、ガイダンスに従ってください。

### II 専門教育に関する授業科目

「専門教育に関する授業科目」には、大学学習法、自然系共通専門基礎科目、自然科学（理学）に区分された科目があります。それぞれの区分について、必修科目及び選択科目があり、各学位プログラムが指定した単位を修得しなければなりません。

「専門教育に関する授業科目」の授業科目及び単位数は、理学部規程別表第2及び授業科目開設一覧の各年度入学者向け開講科目表を参照してください。

#### ○ 大学学習法

大学教育への導入科目です。

#### ○ 自然系共通専門基礎科目

自然科学系学部の学生が専門を学ぶ上で基礎となる授業科目です。

#### ○ 共通ベーシック科目

本学部生としての学習姿勢を身に付け、かつ科学の持つ多面性を学ぶための科目です。

#### ○ 共通コア科目

各学位プログラムの導入科目です。

### III 理学部規程別表第1(第4条関係)及び別表第2の履修方法

「教養教育に関する授業科目」または「専門教育に関する授業科目」から124単位以上を修得してください。

【教養教育に関する授業科目】 21単位以上を修得してください。

「英語」、「初修外国語」、「健康・スポーツ」、「情報リテラシー」、「新潟大学個性化科目」、「人文社会・教育科学」、「自然科学」、「医歯学」及び「大学学習法」区分の科目は「新潟大学授業科目開設一覧」の科目の中から、別表第1の区分毎に規定の単位数を修得してください。ただし、「教養教育に関する授業科目」の科目区分「自然科学」に理学部規程別表第2に定める科目は含まれません。

また、健康スポーツ科学実習Ⅰ(Ia, Ib)を履修する場合は、担当教員が異なる「健康スポーツ科学実習Ⅰa」(0.5単位)と「健康スポーツ科学実習Ⅰb」(0.5単位)を組み合わせる履修してください。代わりに「健康スポーツ科学実習Ⅰ」(1単位)を履修してもかまいません。「健康スポーツ科学実習Ⅰa」、「健康スポーツ科学実習Ⅰb」、「健康スポーツ科学実習Ⅰ」から複数科目を履修した場合、1単位までしか卒業要件として認められません。また、「健康スポーツ科学講義a」(1単位)、「健康スポーツ科学講義b」(1単位)、「健康スポーツ科学講義」(2単位)から複数科目を履修した場合、2単位までしか卒業要件として認められません。(「健康スポーツ科学講義a」、「健康スポーツ科学講義b」は両科目を組み合わせる履修してください。)

「情報リテラシー」区分の必修科目は、「データサイエンス総論Ⅰ」(1単位)及び「データサイエンス総論Ⅱ」(1単位)です。

【専門教育に関する授業科目】 84単位以上を修得してください。

理学部規程別表第2から以下に留意して修得してください。

1. **大学学習法** (理学スタディ・スキルズ) 2単位必修
2. **自然系共通専門基礎** 12単位以上を修得してください。
  - ・原則として1分野6単位以下とし、複数分野の単位を修得してください。
  - ・別表第1及び別表第2で各学位プログラムが細区分毎に規定する単位数を修得してください。
  - ・主聴講学部が指定されている科目がありますので、履修に際しては注意してください。
3. **共通ベーシック科目, 共通コア科目**
  - ・別表第1で各学位プログラムが規定する科目・単位数を別表第2で参照の上、修得してください。
  - ・理学基礎演習は2単位を修得してください。  
ただし、開講番号が異なる複数の理学基礎演習を履修しても、修得できる単位数は2単位です。
  - ・基礎実習・演習科目は2単位以上を修得してください。
  - ・共通ベーシック科目は8単位以上を修得してください。
  - ・共通コア科目は6単位以上を修得してください。

#### 【注意】

以下の科目の単位を、卒業要件単位(124単位)に含めることはできません。

1. 「教科に関する専門的事項」以外の「教科及び教職に関する科目」(教育職員免許状取得のための科目)。ただし、数学プログラムでは「数学科教育法Ⅰ」、「数学科教育法Ⅱ」、「数学科教育法Ⅲ」及び「数学科教育法Ⅳ」の単位を、卒業要件単位(専門教育に関する授業科目)に含めることができます。
2. 学芸員資格取得のための科目(ただしGコード科目は除きます)
3. 社会教育主事資格取得のための科目
4. 経済学部夜間主コース学生向け科目
5. 臨海実習Ⅱ
6. 別表第2に記載されていないSコード科目

## IV アドバイザー制度

理学部では、次のアドバイザー制度を導入し、きめ細かい履修指導を行っています。

- **クラス主任・副主任**  
入学してから学位プログラムに配属されるまでの間、授業の履修方法などの指導を行います。
- **プログラム相談員**  
入学してから学位プログラムに配属されるまでの間、プログラム毎の授業科目履修に関する留意事項などについて指導を行います。
- **プログラム支援員（フロンティア・推薦）**  
フロンティア・スタディ・プロジェクト採択者（総合型選抜による入学者を含む）及び学校推薦型選抜による入学者に対して専門教育を受けるための支援を行います。
- **配属後の相談員**  
学位プログラムに配属された後、授業の履修方法などの指導を行います。

## V 履修申請

原則として「学務情報システム」（Web ブラウザ）から行います。

ただし、集中講義等で「聴講票」により履修申請を行う科目がありますので、その都度通知します。

## VI 履修確認

原則として「学務情報システム」（Web ブラウザ）から行います。学期毎に履修確認期間があります。後日思わぬ不利益を被ることのないように、必ず確認してください。

確認期間については、学務情報システムもしくは掲示板で確認してください。

## VII 履修科目数の上限設定（キャップ制）

履修するそれぞれの科目について十分な予習と復習の時間が必要なため、第1学期（第1ターム、第2ターム）、第2学期（第3ターム、第4ターム）ごとに履修できる授業・演習・実習科目の単位数には上限が設定されています。理学部では、各学期の確定履修科目の単位数は原則として28単位を超えることはできません。キャップ制を適用する科目は、集中講義科目以外の卒業要件に含まれる科目です。3年次編入生は、2年間で卒業要件単位を修得できるように、キャップ制を適用しません。成績優秀な学生及び特別な理由がある学生は、申請により、28単位を超えて履修することが認められることがあります。キャップ制の上限を超えて履修登録が行われ、キャップ制の上限を超えた登録が、特段の理由なく取り消されないまま聴講取消期間を過ぎた場合、理学部学務委員長が取り消しを行います。

## VIII プログラム選択

2年次第1学期終了時に在学期間が18ヶ月以上となり、学位プログラム選択要件を満たした学生は、2年次第2学期始めから7学位プログラムのうちいずれか一つの学位プログラムに配属されます。2年次第1学期終了時に在学期間が18ヶ月未満もしくは学位プログラム選択要件を満たせずに学位プログラムに配属されなかった学生が、2年次第2学期終了時に在学期間が18ヶ月以上となり、学位プログラム選択要件を満たした場合、その学生は配属学生数が受入れ上限に達していない学位プログラムのうちいずれか一つの学位プログラムに配属されます。

## IX 進級

通算して1年以上在学すれば2年次に進級できます。3年次に進級するためには、2年次を通算して1年以上在学し、プログラム選択要件を満たし、所属する学位プログラムが定めた進級要件を満たさなければなりません。4年次に進級するためには、3年次を通算して1年以上在学し、所属する学位プログラムが定めた進級要件を満たさなければなりません。なお、進級時期は、4月もしくは10月に限る。

## X 試験時における注意事項

受験に当たっては、不正行為のないよう厳正な態度で臨んでください。

試験における不正行為により懲戒処分を受けた学生に対しては、不正行為を行った科目は不合格（0点）とし、それ以外の当該学期の履修登録科目は、すべて履修取消とします。

## XI 追試験について

理学部規程第9条に定める追試験を願い出る場合は、受験できなかった授業科目の試験実施の日から4日以内（インフルエンザの場合は7日以内）に、次に掲げる「事実を証明できる書類」と「追試験願」を、理学部学務係に提出してください。申請用の「追試験願」は学務係にあります。追試験を受けるには、学務係にて追試験資格の有無の確認を受け、追試験科目担当教員の承認を得なければなりません。上記日数内に申し出ることができなかった場合は、理学部学務係に相談することができます。

- (1) 病気の場合 医師の診断書
- (2) 事故の場合 事実を証明できる書類
- (3) その他の事実を証明できる書類（理学部学務係及び追試験科目担当教員が妥当と認めた事由に限る）

## XII 再試験について

卒年次学生で1科目（外国人留学生等である場合は2科目）不合格のため、卒業できない学生については、願い出により再試験を行うことができます。再試験の対象となった学生には、理学部学務係から別途連絡します。

再試験の対象となる科目は、当該年度に履修許可された科目で当初の成績が0～59点（不可）と評価された科目に限られ、「――」（履修放棄）と評価された科目は含みません。なお、課題研究・セミナーを含む、演習科目・実験科目・実習科目などの科目は再試験の対象外とします。3月卒業の場合、原則として当該年度2学期開講科目で再試験を行い、2学期開講科目で対象となる科目が無いときには当該年度1学期開講科目で再試験を行います。9月卒業の場合、当該年度1学期開講科目で再試験を行います。また、再試験の評価は、60点を上限とします。

## XIII 成績とGPA

履修登録した授業科目の成績は、その科目毎に下記の評価基準に基づいた点数で評価します。

また、併せて履修登録した全授業科目について、1単位当たりの成績の平均値（GPA）を算出します。

GPAは学期毎に算出し、入学後に履修登録した全ての授業科目について、累積GPAを算出します。

累積GPAと全履修単位数は、学生の勉学に関する“質の高さ”と“意欲の旺盛さ”を端的に表しているとみることができます。

GPAは大学が責任をもって学生に教育を行い、社会に送り出すために、最低限の質の保証されたもので、授業の履修については「厳格な成績評価及び修了認定」をするために、学生の皆さんには自己責任や自己管理についての注意が求められます。

学位プログラム配属を決定する際、一つの学位プログラムに対して配属希望学生が受入れ人数上限を超えた場合、累積GPAが上位の学生からその学位プログラムに配属されます。

数学プログラムでは、4年次の数学講究の担当教員決定に累積GPAを用いる場合があります。

物理学プログラムでは、本学大学院総合学術研究科修士課程一般入試の書類を発行するため、累積GPAを用いて学年ごとに席次を決定しています。また、成績優秀者を推薦する際にも累積GPAを用いています。

化学プログラム・生物学プログラムでは、4年次の研究室配属に累積GPAを用いる場合があります。また、本学大学院総合学術研究科修士課程一般入試の書類を発行するため、累積GPAを用いて学年ごとに席次を決定しています。

自然環境科学プログラムでは、4年次の研究室配属に累積GPAを用いる場合があります。また、FSP採択者の優先的研究室配属の判断にも累積GPAを用いています。

フィールド科学人材育成プログラムでは、4年次の研究室配属に累積GPAを用いる場合があります。また、FSP追加応募の採否に累積GPAを用いています。さらに、FSP採択者の優先的研究室配属の判断にも累積GPAを用いています。

#### 【注意】

取消手続きを行わずに放棄した授業科目、試験等を受けずに成績評価を受けられなかった授業科目があると、その成績表示は「- - -」となり、累積GPAが下がることになります。

#### ○成績評価基準

点数	評語	基準
100点～90点	秀	授業科目の目標を超えている。
89点～80点	優	授業科目の目標に十分達している。
79点～70点	良	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69点～60点	可	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59点～0点	不可	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

#### ○GPA計算

100点満点で評価された各授業科目のグレード・ポイント（GP）は、次の計算式で算出されます。

$$GP = \frac{\text{評価} - 50}{10}$$

<例> 85点の場合、 $GP = (85 - 50) / 10 = 3.5$  となります。

ただし、59点以下の場合は0となります。

GPAは、次の計算式で算出されます。

$$GPA = \frac{\{\text{履修登録した各授業科目の単位数} \times GP\} \text{の総和}}{\text{履修登録した各授業科目の単位数の総和}}$$

累積GPAは、次の計算式で算出されます。

$$\text{累積GPA} = \frac{\{\text{入学時以降に評価を得た各授業科目の単位数} \times GP\} \text{の総和}}{\text{入学時以降に履修登録した各授業科目の単位数の総和}}$$

## XIV 成績評価に対する疑義照会及び不服申立てについて

理学部開設授業科目の成績評価に対して疑義がある場合は、成績確認期間内に、理学部学務係に申し出てください。

なお、疑義照会の回答に対し不服がある場合は、理学部学務係に申し出てください。理学部学務委員会において、不服申立て内容を審査し、結果を通知します。

詳細は、27ページの「留意事項」を参照してください。

## XV 再履修について

単位修得済みの科目について、同一科目を再度履修することができます。

ただし、卒業要件単位には1科目分の単位しか認められません。

※再履修できない科目（実験・実習科目他）もありますので、履修申請の際には注意してください。

## XVI 席次

2年次第1学期までは理学科全体で、学位プログラム配属後は所属する学位プログラムで、学年毎に、席次は修得単位数及び累積GPA等により総合的に決定します。

## XVII 学費負担者への成績通知

本学部では、学生の学修成績を学費負担者に通知しています。

送付に際し、特殊事情や送付先の変更を希望する等の場合は、クラス主任・副主任または所属プログラムの相談員に申し出てください。

## XVIII 身上異動

改氏名、学費負担者の変更、学費負担者の住所変更等の身上異動があった場合は、速やかに理学部長に届け出なければなりません。届出用紙は、理学部学務係にあります。

## XIX 学生連絡先

緊急に連絡を要する場合、大学から連絡先（住所）へ電話等をする場合があります。

入学時に連絡先届を提出するとともに「学務情報システム」にも現住所及び電話番号を必ず登録してください。

連絡先に変更があった場合は、理学部学務係に届けるとともに登録内容の更新を行ってください。

※届出がない場合には、不利益を被ることがあります。

## XX その他

### 1 転プログラム

転プログラムを希望する場合は、まず、所属プログラムの相談員または学務委員に申し出てください。申請用紙は、理学部学務係にあります。転プログラム志願書類の受付期間は12月1日から12月10日（平日のみ）です。ただし、申請は2年次から3年次に進級するときに限り、当該時点での累積GPAが2.5以上である者のみを有資格者とします。また、申請を行う前に希望する学位プログラムの相談員又は学務委員に申し出てください。

なお、学位プログラム内での専門力プログラムから総合力プログラム、または総合力プログラムから専門力プログラムへの変更を希望する場合は、以下によります。

#### (1) 申出期間

申出期間は年2回とする。

3月1日もしくは4月1日から変更したい場合は、2月1日から第2学期の成績登録期限の翌日まで

9月1日もしくは10月1日から変更したい場合は、8月1日から第1学期の成績登録期限の翌日まで

ただし、3月1日もしくは9月1日に変更を申請できる学生は、卒業年次学生に限る。

#### (2) 申出の方法

所属プログラムの相談員または学務委員の許可を得た後、学務係備え付けの申請用紙で申し出る。

## 2 転部

理学部以外の学部へ転部を希望する場合は、予めクラス主任・副主任、所属プログラムの相談員または学務委員に申し出てください。

転部受付の有無・方法・時期等については、各学部により異なりますので、転部を希望する学部の学務係に問い合わせてください。

## 3 休学・退学

学費負担者と相談の上、クラス主任・副主任または所属プログラム学務委員に申し出てください。

各申請用紙は、理学部学務係にあります。

## 4 欠席

いわゆる公欠制度はありません。

## 5 長期欠席

病気等で欠席しなければならない期間が2週間を超える場合は、長期欠席届（病気の場合は医師の診断書を添付）を提出してください。届出用紙は、理学部学務係にあります。

## 6 海外旅行届

海外旅行を行う場合は、学務情報システム上で渡航先や日程等の情報を登録し、「海外渡航計画書」を印刷して理学部学務係に提出してください。

## 7 掲示板

学生への連絡事項は、すべて掲示により周知しますので、1日1回は学務係掲示板および所属プログラム掲示板を見てください。掲示板を見なかったことによる不利益は自分で被らなければなりません。また、学務情報システムの「連絡通知」も1日1回は確認してください。携帯電話からメールシステムが利用できますので活用してください。

## 5. Sコード科目に関する成績評価の疑義照会及び不服申立てに関する留意事項

新潟大学理学部  
教育推進委員会

1. Sコード科目の成績に関して疑義がある場合、「成績評価に関する疑義照会書」（所定様式）に必要事項を記入のうえ、理学部学務係へ提出することにより、担当教員から当該疑義に対する回答を受け取ることができます。しかし、疑義照会にあたっては、次の点に留意してください。

### 【成績評価の疑義照会に関する留意事項】

成績評価の疑義照会ができるのは、自らの成績への疑義に明確な根拠がある場合のみです。疑義の内容が具体的に示されていないと、受け付けられない場合もあります。特に、単なる再評価を求めるもの、救済してほしいといった希望や懇願的な内容のもの、低い評価に対する個人的感情に基づくもの、他者の扇動によると思われるもの等は受け付けられません。

このことについて、具体的には次のような事例を参考にしてください。

### 受付できる事例

- 1) 成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。
- 2) シラバスに記載されている成績評価の基準及び方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの（ただし、成績評価の基準や方法について変更される場合もあるので教員から連絡がなかったか注意すること）。

### 受付できない事例

- 1) 担当教員に情状を求めるもの。  
「進級に関わる」、「卒業に関わる」、「この単位があれば卒業できる」等
- 2) 具体的な根拠がなく、他の学生と対比して単に不満を訴えるもの。  
「友人は80点だが、なぜ自分は70点なのか」等
- 3) 具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。  
「がんばったと思うのだが、どうして60点なのか」等

※ 2), 3) の場合であっても、明確な根拠の提示がある場合は受付可。

2. 疑義照会後の教員からの回答によっても疑義が解消されない場合は、「成績評価に関する不服申立書」（所定様式）に必要事項を記入のうえ、理学部学務係へ提出することにより、成績評価に関する「不服申立て」を行うことができます。

### 【成績評価の不服申立てに関する留意事項】

不服申立てができるのは、疑義照会により得られた回答が曖昧で教員の説明が不明確な場合のみです。どのような点が不明確であるのか、申立者により具体的に示されていないと、受け付けられない場合もあります。特に、教員による回答が合理的であるにもかかわらず単に「食い下がる」もの、照会結果に必要な以上の説明を求めるものは受け付けられません。

不服申立てが受け付けられた後は、理学部学務委員会が、該当科目の成績評価について審査をします。その過程で、申立者または担当教員に評価材料（レポート、答案など）の提出を求め、採点や評価方法が妥当であるかを検討します。この手続きには、時間を要することもありますので、留意しておいてください。

## 6. 教育職員免許状の取得について

理学部において取得することができる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりです。

区分	免許状の種類	免許教科
理学部	中学校教諭一種免許状	数学, 理科
	高等学校教諭一種免許状	数学, 理科

※新潟大学大学院総合学術研究科修士課程に進学すると、専修免許状の取得が可能です。

教育職員免許状取得に必要な資格

免許状の種類	所用資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数
中学校教諭一種免許状		学士の学位を	60
高等学校教諭一種免許状		有すること	60

本学のカリキュラム上、教員免許状取得のためには、29～32 ページに示す「教科及び教職に関する科目」(教科及び教科の指導法に関する科目, 教育の基礎的理解に関する科目等)の単位の修得が必要です。

免許状取得には、「教科及び教職に関する科目」の他に「一般教育科目」(教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目)の単位の修得が必要です。

**中学校教諭免許状取得には、更に「介護等の体験」が義務づけられています。**

一般教育科目 (教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目)

免許法施行上の科目	単位数	開設授業科目	単位数		履修方法
			必修	選択	
日本国憲法	2	○日本国憲法	2		
体育	2	健康スポーツ科学講義 健康スポーツ科学講義 a 健康スポーツ科学講義 b		2 1 1	※左記の授業科目のうちから いずれか 2 単位修得のこと
外国語コミュニケーション	2	○アカデミック英語入門 L ○アカデミック英語入門 R	1 1		※左記の授業科目 2 単位修得のこと
数理, データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理概論 A I 情報処理概論 A II データサイエンス基礎演習 データサイエンス総論 I データサイエンス総論 II		2 2 2 1 1	※1 ※1 の授業科目のうちから 2 単位修得もしくは、※2 の授業科目 2 単位修得のこと

○印：免許状取得上の必修科目を示す。

卒業要件単位の必修とは異なる場合があります。

教科及び教科の指導法に関する科目

	中学校一種免許状		高等学校一種免許状	
	教科に関する 専門的事項	各教科の指導法 (教科教育法)	教科に関する 専門的事項	各教科の指導法 (教科教育法)
数学	代数学 幾何学 解析学 「確率論, 統計学」 コンピュータ  ◎上記の科目区分に ついてそれぞれ1単位 以上 計24単位以上  ※科目区分の詳細は 30ページ参照	数学科教育法Ⅰ～Ⅳ  計8単位	代数学 幾何学 解析学 「確率論, 統計学」 コンピュータ  ◎上記の科目区分に ついてそれぞれ1単位 以上 計28単位  ※科目区分の詳細は 30ページ参照	数学科教育法Ⅰ 2単位  数学科教育法Ⅱ～Ⅳ から2単位
			最低修得単位数を超えて履修した上記の科目 計4単位以上	
理科	物理学 化学 生物学 地学  物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験  ◎上記の科目区分に ついてそれぞれ1単位 以上 計24単位以上  ※科目区分の詳細は 31ページ参照	理科教育法Ⅰ～Ⅳ  計8単位	物理学 化学 生物学 地学  ◎上記の科目区分に ついてそれぞれ1単位 以上  物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験  ◎上記4実験科目区分 のうちから1実験科目 区分1単位以上 計32単位以上  ※科目区分の詳細は 31ページ参照	理科教育法Ⅰ 2単位  理科教育法Ⅱ 2単位  ※理科教育法Ⅲ, Ⅳは 高校免許状取得要件 外です。

「教科に関する専門的事項」の科目

中学・高校一種免許状(数学)

免許法施行規則の定める科目区分 開設授業科目	単位数
代数学	
○線形代数IA	1
○線形代数IB	1
○数学演習A	1
○数学演習B	1
代数入門A	2
代数入門B	2
代数系IA	1
代数系IB	1
代数系IIA	1
代数系IIB	1
幾何学	
○線形代数IIA	2
○線形代数IIB	2
○代数・幾何学序論A	1
○代数・幾何学序論B	1
幾何学IA	2
幾何学IB	2
幾何学IIA	1
幾何学IIB	1
解析学	
○微分積分学IA	1
○微分積分学IB	1
○微分積分学IIA	2
○微分積分学IIB	2
○解析学序論A	1
○解析学序論B	1
○集合と位相入門A	1
○集合と位相入門B	1
位相空間論A	1
位相空間論B	1
複素解析学IA	1
複素解析学IB	1
複素解析学IIA	1
複素解析学IIB	1
関数解析学A	1
関数解析学B	1
「確率論、統計学」	
実解析学A	2
実解析学B	2
数理統計学IA	1
数理統計学IB	1
統計学基礎1	1
統計学基礎2	1
コンピュータ	
計算機演習A	1
計算機演習B	1
数値解析A	1
数値解析B	1

○は免許状取得のための必修科目を示す。  
卒業要件単位の必修とは異なる場合があります。

中学・高校一種免許状（理科）

免許法施行規則の定める科目区分 開設授業科目	単位数
物理学	
○物理学概論	2
物理学基礎AI	2
物理学基礎BI	2
物理学基礎AII	2
物理学基礎BII	2
解析力学	2
基礎ベクトル解析	2
電磁気学I	2
電磁気学II	2
熱力学	2
振動論と微分方程式	2
波動とフーリエ解析	2
量子力学IA	2
量子力学IB	2
量子力学IIA	2
量子力学IIB	2
統計力学IA	2
統計力学IB	2
統計力学IIA	2
統計力学IIB	2
特殊相対論A	1
特殊相対論B	1
基礎量子力学	2
地球流体力学	2
化学	
化学基礎A ※	2
化学基礎B ※	2
基礎生物化学	2
分析化学I	2
分析化学II	2
無機化学I	2
無機化学II	2
無機化学III	2
有機化学I	2
有機化学II	2
有機化学III	2
有機化学IV	2
化学熱力学	2
化学統計力学 I	2
基礎量子力学	2
量子化学	2
化学統計力学II	2
生体分子化学I	2
生体分子化学II	2
有機機器分析	2
生物化学(理)	2
エネルギー物質科学	2
天文学概論	2
海洋化学	2

いずれか1科目以上  
選択必修

○は免許状取得のための必修科目を示す。  
卒業要件単位の必修とは異なる場合があります。

免許法施行規則の定める科目区分 開設授業科目	単位数
生物学	
生物学基礎A ※	2
生物学基礎B ※	2
基礎植物学	2
基礎細胞生物学	2
基礎細胞遺伝学	2
分子生物学	2
細胞生物学 I	2
細胞生物学 II	2
生体情報学 I	2
生体情報学 II	2
動物生理学 I	2
動物生理学 II	2
系統動物学	2
発生生物学 I	2
発生生物学 II	2
植物生理学	2
生態学	2
進化生物学b	1
多様性生物学B	2
進化生物学a	1
機能形態学	2
水圏生態学	2
適応生物学	2
地学	
地学基礎A ※	2
地学基礎B ※	2
地学基礎C ※	2
地質学入門a	1
地質学入門b	1
構造地質学入門	1
地層・古生物学入門	2
鉱物・岩石学入門	2
地質調査法I	2
地質調査法II	1
岩石学A	1
テクトニクス	2
鉱物学A	1
地層学A	1
古生物学A	1
鉱物学B	1
鉱物学C	1
岩石学B	1
岩石学C	1
構造地質学	2
地層学B	1
古生物学B	1
地史学A	1
地史学B	1
海洋地質学A	1
海洋地質学B	1
環境物理学	2
環境気象学	2
物理学実験	
物理学基礎実習a ※	1
物理学基礎実習b ※	1
物理学実験A	2
物理学実験B	2
物理学実験C	2
物理学実験D	2
化学実験	
化学基礎実習a ※	1
化学基礎実習b ※	1
地球化学分析法	1
水質化学分析法	1
生物学実験	
生物学基礎実習a ※	1
生物学基礎実習b ※	1
臨海実習I	2
海洋生物学実験	1
地学実験	
地学基礎実習a ※	1
地学基礎実習b ※	1
地質調査法実習I	2
地質調査法実習II	1
地質調査法実習III	1
岩石学実験I	1
野外実習A	4
野外実習B	2
岩石学実験II	1

いずれか1科目以上  
選択必修

いずれか1科目以上  
選択必修

いずれか1科目以上  
選択必修

いずれか1科目以上  
選択必修

いずれか1科目以上  
選択必修

いずれか1科目以上  
選択必修

### 教育の基礎的理解に関する科目等

下記の表に記載されているとおりの科目を必ず履修してください。

	授業科目名	単位数		学年指定
		中一	高一	
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論	2	2	2～4年
	教職入門	2	2	1年
	教育の制度と経営	2	2	2～4年
	教育心理学B	2	2	1年
	特別支援教育概論	2	2	3・4年
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳指導法	2		2～4年
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法B	2	2	2～4年
	教育方法及び特別活動の指導法B	2	2	2年
	教育情報論	1	1	2～4年
	生徒指導B	2	2	2・3年
	教育相談・進路指導B	2	2	2・3年
教育実践に関する科目	中等教育実習Ⅱ	3	3	4年
	中等教育実習Ⅲ	2		4年
	教職実践演習（中等）	2	2	4年
計		28	24	

### 教育実習

	中学校一種	高等学校一種	備考
単位数	5単位	3単位	
事前・事後指導	事前指導 事後指導		4月～5月予定 11月予定
実習期間	4週間 中学校実習 高等学校実習	2週間 高等学校実習	出身学校等
履修資格	4年次学生		
履修要件	<u>3年次終了までに、以下の科目の単位を修得済みであること。</u> 教職入門 教育心理学B、特別支援教育概論（※1） 生徒指導B、教育相談・進路指導B（※2） 教科教育法（※3）		（※1）「教育心理学 B」又は「特別支援教育概論」のうち、いずれか最低1科目2単位を修得すること。 （※2）「生徒指導 B」及び「教育相談・進路指導 B」の2科目（各2単位）をいずれも修得すること。 （※3）教科教育法については、1科目2単位を修得していれば、教育実習を履修することができます。
手続	3年次に、学生本人が実習校（出身学校等）へ依頼する		

◎実習教科と免許教科は同じことが原則となります。

◎「数学科教育法Ⅰ」は高等学校一種免許状（数学）取得希望者の必修科目です。

◎「理科教育法Ⅲ」「理科教育法Ⅳ」は高等学校一種免許状（理科）取得要件外です。

3年次4月にガイダンスを行いますので、教育職員免許状取得希望者は、必ず出席してください。

### ○介護等体験

申し込みを2年次の秋（10月頃）、実施方法や体験施設等についてのガイダンスを2年次の冬（1月～2月頃）に行います。

また、事前指導を3年次の春（4月頃）に行いますので、中学校教諭免許状取得希望者は必ず出席してください。

※ 教育職員免許状に関するガイダンス日程や、免許状取得について変更が生じた場合は、連絡通知や掲示にて周知します。

理学部履修モデル

◎取得できる免許状の種類

理学科	中学校一種（数学，理科），高等学校一種（数学，理科）
-----	----------------------------

免許法施行規則上の科目及び必要単位				本学における授業科目名及び履修年次									
免許法施行規則66条の6に定める科目	中一様免 高一様免		1年次		2年次		3年次		4年次		中一様免 高一様免		
	単位数	単位数	授業科目名		授業科目名		授業科目名		授業科目名		単位数	単位数	
日本国憲法	2	2	日本国憲法2単位								2	2	
体育	2	2	【健康スポーツ科学講義a及びb（各1単位）】又は【健康スポーツ科学講義（2単位）】から2単位の計2単位								2	2	
外国語コミュニケーション	2	2	アカデミック英語入門L，Rの2科目2単位								2	2	
数理，データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2	情報処理概論AI，AII，データサイエンス基礎演習から1科目2単位又はデータサイエンス総論I，IIから2科目2単位								2	2	
合計	8	8									8	8	
科目区分	中一様免 高一様免		1年次		2年次		3年次		4年次		中一様免 高一様免		
	最低修得単位数	最低修得単位数	授業科目名		授業科目名		授業科目名		授業科目名		最低修得単位数	最低修得単位数	
教	指導科目及び関係する科目	各科目に含めることが必要な事項		履修の手引を参照し，卒業までに「教科に関する専門的事項」の各区分から，必修科目を含めて，最低修得単位数以上を修得のこと。								20	20
		教科に関する専門的事項		28	24	教科教育法（3年次までに2単位以上修得）							
科	教育の基礎的理解に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）											
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育学概論								2	2
及	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門								2	2
		教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営								2	2
び	教育の基礎的理解に関する科目	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学B								2	2
		特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論								2	2
教	教育の基礎的理解に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		(教育課程及び総合的な学習の時間の指導法Bに含まれる。)									
		道徳の理論及び指導法		道徳指導法（中学校免許取得希望者のみ）								2	
職	及	総合的な学習（探究）の時間の指導法		教育課程及び総合的な学習の時間の指導法B								2	2
		特別活動の指導法		教育方法及び特別活動の指導法B								2	2
に	総合的な学習の時間の指導法	教育の方法及び技術		(教育方法及び特別活動の指導法Bに含まれる。)									
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育情報論								1	1
関	総合的な学習の時間の指導法	生徒指導の理論及び方法		生徒指導B								2	2
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談・進路指導B								2	2
す	総合的な学習の時間の指導法	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		(教育相談・進路指導Bに含まれる。)									
		教育実習		5	3					中等教育実習Ⅱ・Ⅲ		5	3
る	教育実践科目	教職実践演習		2	2					教職実践演習（中等）		2	2
		大学が独自に設定する科目		4	12	「教科及び教科の指導法に関する科目」について，最低修得単位数を超えて4単位（高校免許取得希望者は12単位）以上を修得のこと。ただし，高校（理科）免許の取得にあたっては，理科教育法Ⅲ，Ⅳの単位を「大学が独自に設定する科目」に含めることはできない。							
目	合計	59	59									60	60

## 7. 学芸員の資格取得について

### 1 学芸員の職務

学芸員とは、博物館法に基づく博物館の専門職員であって、博物館資料の収集、保管、展示および調査研究、その他これに関連する事業について専門的事項をつかさどる者をいいます。

### 2 学芸員の資格

学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者は、学芸員となる資格があります。

### 3 博物館に関する科目及び単位数

文部科学省令で定める大学において修得すべき博物館に関する科目の単位と、本学で開講される科目との関係は、次のとおりです。

文部科学省令の科目・単位数		左記に対応する 授業科目・単位数		履修 単位数	標準 履修 年次	備考 (開設 学部)
科目名	単位数	授業科目名	単位数			
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2	2年	Gコード
博物館概論	2	博物館概論	2	2	2年	人文学部
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	3年	人文学部
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	3年	人文学部
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2	3年	人文学部
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	3年	人文学部
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	2年	人文学部
博物館情報・メディア 論	2	博物館情報・メディ ア論	2	2	2年	人文学部
博物館実習	3	博物館実習	3	3	4年	人文学部
合計	19	合計		19		

#### 【備考】

- ①上記必修科目のほか、理学部で開設されている「臨海実習 I」、「環境生物学野外実習 C」、「系統動物学」、「海洋生物学実験」、「地層・古生物学入門」、「古生物学 A」などを選択して修得することが望ましい。
- ②上記必修科目（博物館実習を除く 8 科目）は、博物館実習を 4 年次に履修することから、必ず 3 年次までに修得してください。
- ③博物館実習についてのガイダンスを、3 年次の 10 月及び 12 月上旬に行います（掲示にて通知）。学芸員資格取得希望者は必ず出席してください。
- ④必修科目の時間割のために指定年次に受講できない場合は、学務係に相談してください。
- ⑤学芸員資格取得のための科目（G コード科目を除く）は卒業要件に含まれません。

※ 新潟大学の大学院進学後に、定員に余裕がある場合には、授業担当者の許可を得て、学部の授業を履修することができます（博物館実習を含む）。

## 8. 地球環境フィールドプランナー養成コースについて

### 1 目的

地球環境フィールドプランナー養成コースは、自然・文化・社会の調和を図り、環境保全と産業発展の両立する地球のあり方を考えることのできるプランナーを育成することを目的としています。

### 2 内容

本コースは、クラウド型オンライン学習と渡航型オンサイト学習を連結したハイブリッド交流プログラムで、体験型の短期プログラム、課題解決型の中・長期プログラムがあります。オンライン学習では、「仮想フィールド」としてオンライン教材化した調査風景等の環境情報を用いて、各国学生混成チームでの課題設定及び解決方策の立案に取り組むグループワークを行います。渡航型オンサイト学習では、仮想フィールド学習の仮説検証や実際の試料を用いた解析等を行い、自然を精緻に読み解く実践力を習得します。

### 3 対象国及び交流大学

インド：インド理科大学院大学、インド宇宙科学技術大学、コーチン科学技術大学、インド工科大学ルーキー校、インド工科大学カーンプル校

オーストラリア：カーティン大学、マッコーリー大学、ウーロンゴン大学

スリランカ：ペラデニア大学

### 4 地球環境フィールドプランナー養成コースの修了要件

各コース区分の修了に関わる授業科目とその単位数は、次のとおりです。

コース区分	授業科目	単位	コース修了に必要な単位数	
			必修	選択
短期	地球環境の多様性と歴史	1	1	
	国際フィールド科学演習	2		1 単位以上
	海外研修 ※	2		
	フィールド企業インターンシップ	1		
	合計		2 単位以上	
中期	地球環境の多様性と歴史	1	1	
	国際フィールド科学演習	2		2 単位以上
	海外研修 ※	2		
	フィールド企業インターンシップ	1		
	海外フィールド実習 A	2	2	
	合計		5 単位以上	
長期	地球環境の多様性と歴史	1	1	
	国際フィールド科学演習	2		3 単位以上
	海外研修 ※	2		
	フィールド企業インターンシップ	1		
	海外フィールド実習 B	4	4	
	合計		8 単位以上	

※ 地球環境フィールドプランナー養成コースの定める海外研修のみ認定します

#### 【備考】

- ①本コースの修了認定を受けた学生は、既に単位を修得した上記の授業科目を再履修することができます。ただし、同一コース区分を重複して修了認定を受けることはできません。
- ②本コースについてのガイダンスを、第1タームに行います（掲示にて通知）。希望者は必ず出席してください。
- ③本コースを修了すると、認定証が授与されます。さらに、中期・長期プログラムを修了した学生には、国際標準化組織「IMS グローバル・ラーニング・コンソーシアム」が認定するデジタル学習歴証明として「オープンバッジ」が発行されます。

## 9. 全学分野横断創生プログラム (NICE プログラム) について

新潟大学では、学生の皆さんが所属する学部の枠を超えて、複数の専門領域を横断して、体系的に学修することができる仕組みとして、全学分野横断創生プログラム (Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program (通称 NICE プログラム)) を設けています。

NICE プログラムは、以下のとおり 2 種類あります。

NICE プログラム (令和 6 年度以降)

- ① 学修創生型マイナー (14 単位以上)
- ② パッケージ型マイナー (12 単位以上)

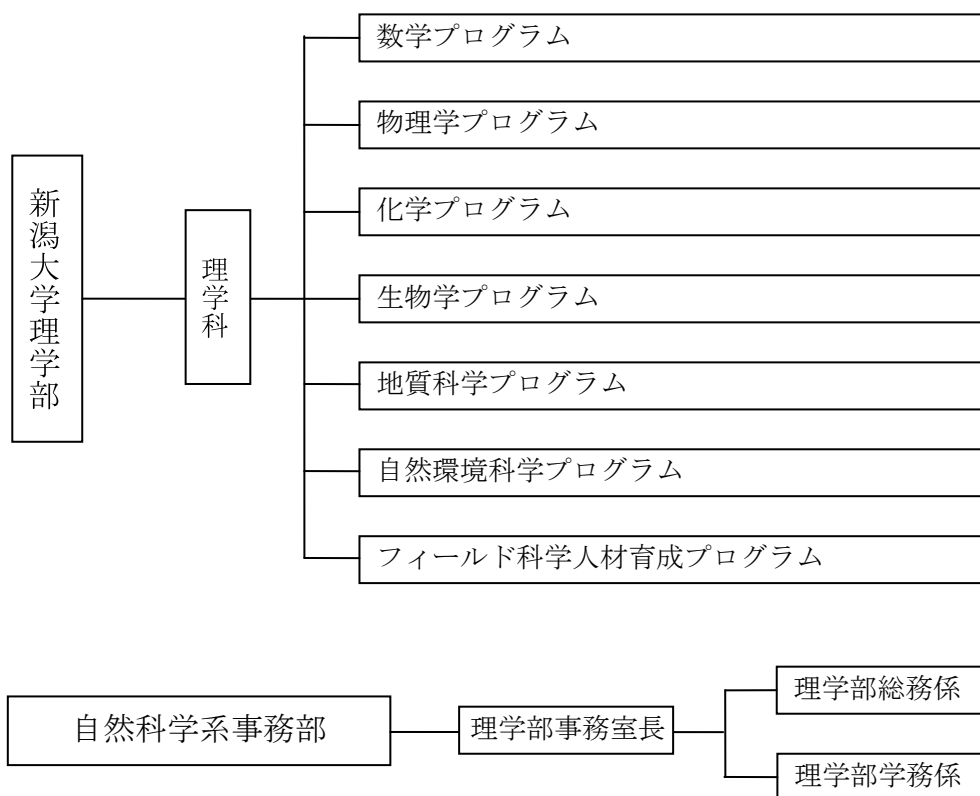
いずれの場合も、第 2 年次第 2 学期以降に所定の要件を満たし申請するとマイナーの修了認定がされます。①学修創生型マイナー、②パッケージ型マイナーとも、各学部の自由選択科目等を利用して各学位プログラムの卒業の要件単位の範囲内でマイナーを履修することができます。さらに、マイナーの履修を始める学生を支援する科目「分野横断デザイン」、専門の教員であるアカデミック・アドバイザーによる相談など、マイナーの履修に関する質問・疑問に答え、履修を多面的に支える充実したサポート体制が整えられています。興味のある学生は、是非 NICE プログラムのガイダンスに参加してみてください。

詳しくは、NICE プログラムのホームページを参照してください。

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>



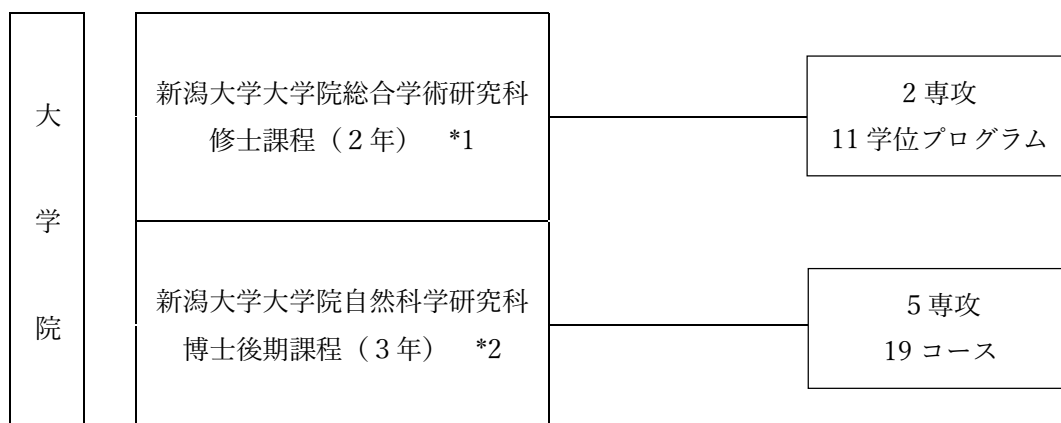
## 10. 理学部の組織



## 11. 大学院の組織

新潟大学では、令和8年度から自然科学研究科博士前期課程と現代社会文化研究科博士前期課程を統合して「総合学術研究科修士課程」を設置しました。（自然科学研究科博士後期課程と現代社会文化研究科博士後期課程の統合は令和10年度を予定しています。）

この改組により、技術革新を社会の変革につなげる人文社会科学の知と新たなイノベーションを生み出す自然科学の知を結合させ、単一の専門知で解決できない課題を解決し、社会で新たな価値を創造する「総合知」の創出を目指しています。

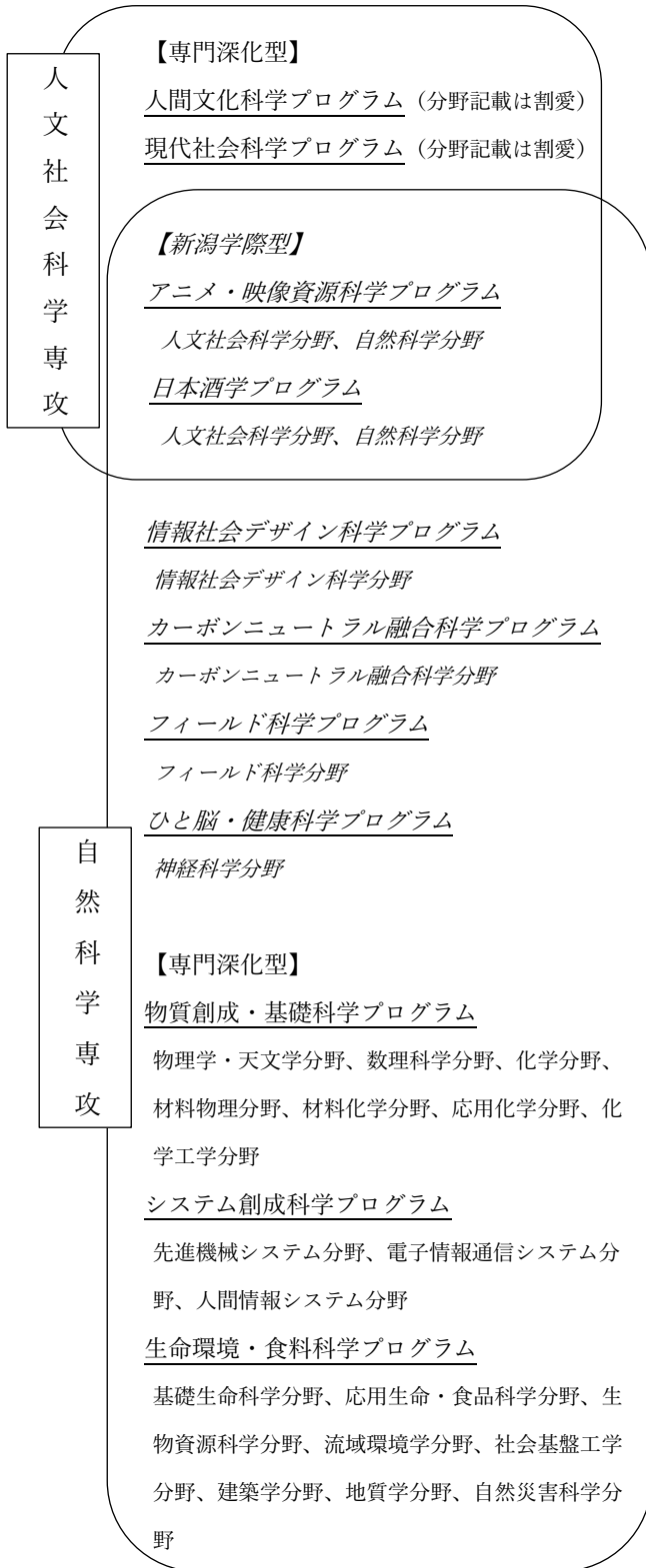


\*1 令和10年度に修士課程から「博士前期課程（2年）」に移行する予定です。

\*2 令和10年度に現代社会文化研究科博士後期課程と統合し、「総合学術研究科博士後期課程（3年）」に移行する予定です。

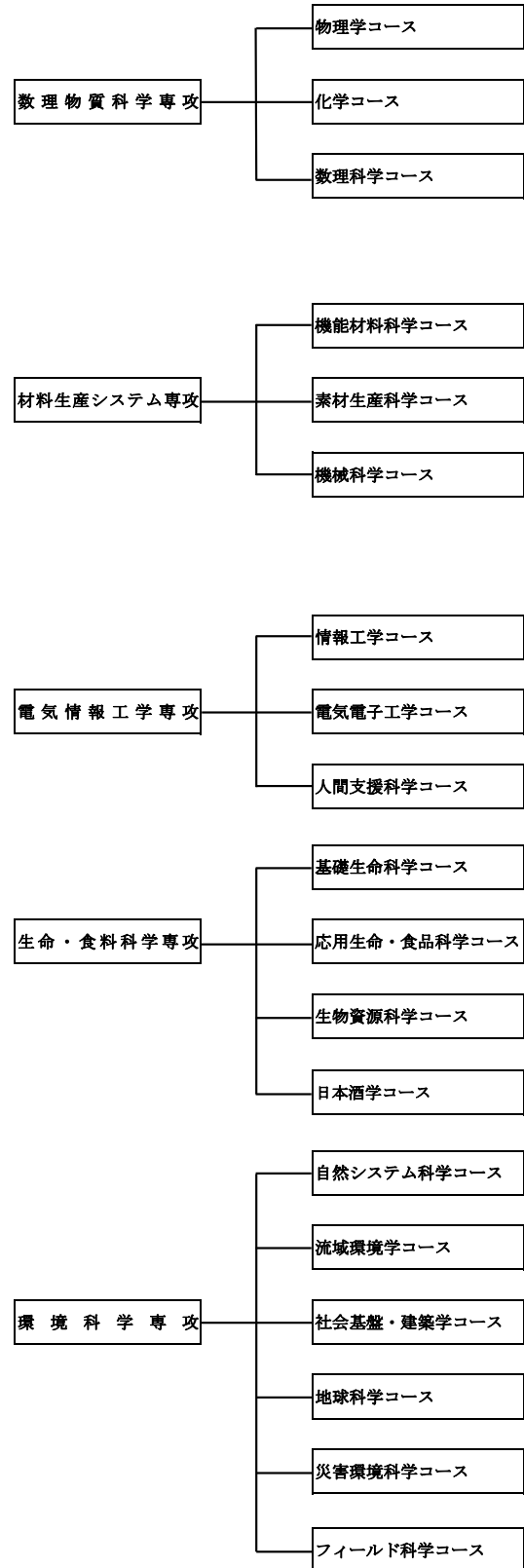
## 12. 自然科学系の大学院の構成

### (1) 総合学術研究科修士課程



※上記分野は入学者選抜試験での出題分野です。

### (2) 自然科学研究科博士後期課程



## 13. 教授会

新潟大学の全体組織については「学生便覧」等に示してありますが、その構成の一つとして本学部には「教授会」が置かれ、学部の管理、運営に関する事項等を審議し、方針を決定する機関となっています。

特に、学生諸君に直接関わりの深い問題については、次の委員会が扱います。

### 1 学務委員会

- 事項 ① カリキュラム，時間割，試験の実施  
② 教育実習・教員職員免許の関係  
③ 学生の身分異動の関係  
④ 特別講義  
⑤ 奨学生の推薦  
⑥ 部外活動及び福利厚生  
⑦ 自治会・学生相談  
⑧ その他学務関係全般

### 2 就職・進路指導委員会

事項 就職及び進学等の進路指導に関する事項

### 3 判定委員会

事項 学生の入学及び卒業の認定並びに学位プログラムの配属の決定に関する事項

## 14. 事務

本学部の事務を処理するために理学部総務係と理学部学務係があります。

特に、学生生活を送る上で日常的に関わりの深い理学部学務係は、学務委員会等と密接な連携のもとに諸般の事務処理にあたっています。

### 理学部学務係の事務分掌

- (1) 教育課程の編成及び授業実施に関すること。
- (2) 学生の募集及び入学試験に関すること。
- (3) 入学・卒業，その他学生の学籍に関すること。
- (4) 学生の修学等を支援するために必要な助言・指導，その他の援助に関すること。
- (5) 学位に関すること。
- (6) 学籍その他の記録に関すること。
- (7) 外国人留学生に関すること。
- (8) 教育実習及び教育職員免許に関すること。
- (9) 課外活動及び福利厚生に関すること。
- (10) 就職及び卒業後の進路に関すること。
- (11) 諸証明に関すること。
- (12) 所掌事務の調査及び統計に関すること。
- (13) その他学務関係事務に関すること。

学業及び学生生活を送る上で様々な問題が生じた時は、遠慮なくクラス主任・副主任や所属プログラムの相談員に積極的に相談してください。

# 15. 理学部学位プログラム関係教員一覧

分野等	氏名	カナ	職名	研究室	分野等	氏名	カナ	職名	研究室			
数学プログラム	解析学	三浦 毅	ミウラ タケン	教授	理学部A棟	503	岩石・ 鉱物学	小西 博巳	コニシ ヒロミ	教授	理学部A棟	404
		渡邊 恵一	ワタナベ ケイイチ	教授	理学部A棟	501		サティッシュクマル マトスーダン	教授	理学部A棟	412	
		應和 宏樹	オウ ヒロキ	准教授	理学部A棟	511		高澤 栄一	タカザワ エイチ	教授	理学部A棟	415
		大井 志徳	オオイ シホ	准教授	情報理工棟	510		高橋 俊郎	タカハシ シロウ	准教授	生命環境棟	105-2
		小島 秀雄	コジマ ヒデオ	教授	情報理工棟	404		野口 里奈	ノグチリナ	准教授	理学部A棟	427
	代数・ 幾何学	星 明考	ホシ アキラ	教授	理学部A棟	509		柴田 翔平	シバタ ショウヘイ	助教	理学部A棟	417
		鈴木 有祐	スズキ ユウスケ	教授	理学部A棟	505		植田 勇人	ウエダ ユウジン	准教授	理学部A棟	408
		折田 龍馬	オリエ リュウマ	准教授	理学部A棟	512		小林 健太	コバヤシ ケンタ	講師	生命環境棟	106-1
		橋詰 健太	ハシズメ ケンタ	助教	理学部A棟	508		栗原 敏之	クリハラ シュウキ	教授	理学部A棟	410
		山中 環	ナカノ タカタキ	教授	情報理工棟	509		椎野 勇太	シノ ユウタ	准教授	理学部A棟	401
応用数学	山田 修司	ヤマダ シュウジ	教授	情報理工棟	405	葉田野 希	ハノノ ノジミ	准教授	理学部A棟	414		
	原瀬 晋	ハラセ シン	准教授	情報理工棟	506	ト部 厚志	ウラベ アツシ	教授	災害研	210		
	数学プログラム事務室			理学部A棟	516	片岡 香子	カタオカ キョウコ	教授	災害研	209		
物理学プログラム	浅賀 岳彦	アサカ ケイコ	教授	理学部A棟	210	渡部 直喜	ワタナベ ナオキ	准教授	災害研	211		
	早坂 圭司	ハヤサカ ケイジ	教授	理学部A棟	204	地質科学プログラム事務室			理学部A棟	406		
	江尻 信司	エジリ シンジ	准教授	理学部A棟	208	地球環境 科学	本田 明治	ホンダ アキハル	教授	環境エネ棟	411	
	大坪 隆	オホツボ タカシ	准教授	物質生産棟	259		奈良間 千之	ナラマ チユキ	教授	環境エネ棟	408	
	中野 博章	ナカノ ヒロアキ	准教授	理学部A棟	201		野口 里奈	ノグチリナ	准教授	理学部A棟	427	
	西 亮一	ニシ リョウイチ	准教授	理学部A棟	217		高橋 直也	タカハシ ナオヤ	助教	環境エネ棟	410	
	本郷 優	ホンコウ ユウ	准教授	理学部A棟	212		環境 生物学	宮崎 勝己	ミヤザキ カツミ	教授	理学部C棟	107
	遊佐 洋右	ユサ ユウスケ	准教授	理学部A棟	206	林 八寿子		ハヤシ ヤスコ	准教授	理学部C棟	110	
	下西 隆	シモニシ タカシ	准教授	環境エネ棟	409	墨谷 暢子		スミヤ ノブコ	准教授	理学部C棟	108	
	渡辺 一也	ワタナベ カズヤ	助教	理学部A棟	209	石崎 智美		イシザキ サミ	准教授	理学部C棟	105	
佐藤 優太郎	サトウ ユウタロウ	助教	理学部A棟	205	藤村 衡至	フジムラ コウジ		助教	理学部C棟	103		
物性科学	藤本 悠輝	フジモト ユウキ	助教	理学部A棟	214	田崎 英祐	タサキ エイスケ	准教授	理学部C棟	224		
	大野 義章	オノ ヨシアキ	教授	物質生産棟	702	神林 千晶	カンバヤシ チアキ	助教	生命環境棟	303-1		
	摂待 力生	セツタイ リキオ	教授	物質生産棟	703	副島 浩一	ソベジマ コウイチ	教授	環境エネ棟	407		
	吉森 明	ヨシモリ アキラ	教授	物質生産棟	752	松岡 史郎	マツオカ シロウ	教授	物質生産棟	651-1		
	石川 文洋	イシカワ フミヒロ	准教授	物質生産棟	705	則末 和宏	ノリノエ カズヒロ	准教授	理学部C1棟	375		
	根本 祐一	ネモト ユウイチ	准教授	物質生産棟	710	下西 隆	シモニシ タカシ	准教授	環境エネ棟	409		
	大村 彩子	オオムラ アヤコ	准教授	物質生産棟	707	自然環境科学プログラム事務室			理学部C棟	111		
	大久保 毅	オオクボ ヨシ	准教授	物質生産棟	704-2	理学部	奈良間 千之	ナラマ チユキ	教授	環境エネ棟	408	
	赤津 光洋	アカツ ミツヒロ	助教	物質生産棟	710		本田 明治	ホンダ アキハル	教授	環境エネ棟	411	
	野垣 康介	ノガキ コウスケ	助教	物質生産棟	704-1		松岡 史郎	マツオカ シロウ	教授	物質生産棟	651-1	
創生学部	小山 翔子	コヤマ ショウコ	助教	理学部A棟	202		栗原 敏之	クリハラ シュウキ	教授	理学部A棟	410	
物理学プログラム事務室			理学部A棟	220	宮崎 勝己		ミヤザキ カツミ	教授	理学部C棟	107		
化学プログラム	大鳥 範	オトリ ノリカズ	教授	情報理工棟	306		椎野 勇太	シノ ユウタ	准教授	理学部A棟	401	
	生駒 忠昭	イコマ タダアキ	教授	物質生産棟	602		則末 和宏	ノリノエ カズヒロ	准教授	理学部C1棟	375	
	丸山 健二	マルヤマ ケンジ	教授	情報理工棟	309		石崎 智美	イシザキ サミ	准教授	理学部C棟	105	
	三浦 智明	ミウラ トモアキ	准教授	物質生産棟	609		野口 里奈	ノグチリナ	准教授	理学部A棟	427	
	梅林 泰宏	ウメバヤシ ヤスヒロ	教授	物質生産棟	605		小山 偲歩	コヤマ シホ	助教	理学部C1棟	378	
	後藤 真一	ゴトウ シンイチ	准教授	理学部C棟	322	高橋 直也	タカハシ ナオヤ	助教	環境エネ棟	410		
	韓 智海	ハン ジヘ	助教	物質生産棟	652	農学部	権田 豊	ゴンダ ユツカ	教授	農学部	A316	
	侯野 善博	マタノ ヨシヒロ	教授	物質生産棟	603		関島 恒夫	セキジマ ツネオ	教授	生命環境棟	603-2	
	岩本 啓	イワモト ヒロシ	准教授	物質生産棟	601		村上 拓彦	ムラカミ タクヒコ	教授	農学部	A312	
	田山 英治	タヤマ エイジ	准教授	物質生産棟	616		吉川 夏樹	ヨシカワ ナツキ	教授	農学部	A412	
生化学	中馬 吉郎	チュウマン ヨシロウ	教授	理学部C棟	229		ウイカ アンドリュー		准教授	農学部	A413	
共基セ	古川 貢	フルカワ コウ	准教授	環境エネ棟	311		森口 喜成	モリグチ ヨシナリ	准教授	農学部	C003	
化学プログラム事務室			理学部C棟	313	永野 博彦		ナガノ ヒロコ	助教	農学部	A215		
生物学プログラム	長束 俊治	ナツカ シュンジ	教授	生命環境棟	703-3		柴田 嶺	シバタレイ	助教	農学部	A314	
	伊東 孝祐	イトウ コウスケ	准教授	生命環境棟	705		災害・復興 科学研究所	ト部 厚志	ウラベ アツシ	教授	災害研	210
	田崎 英祐	タサキ エイスケ	准教授	理学部C棟	224			河島 克久	カワシマ カツヒサ	教授	災害研	207
	神林 千晶	カンバヤシ チアキ	助教	生命環境棟	303-1	西井 稜子		ニシイ リョウコ	准教授	災害研	208	
	井筒 ゆみ	イツツ ユミ	教授	生命環境棟	303-2	渡部 直喜		ワタナベ ナオキ	准教授	災害研	211	
	杉本 健吉	スギモト ケンキチ	准教授	生命環境棟	306-1	安田 浩保		ヤスタ ヒロヤス	准教授	環境エネ棟	213	
	動物学	藤間 真紀	フジマキ マキ	准教授	生命環境棟	306-4	新屋 啓文	ニイハ ヒロミ	准教授	災害研	206	
	藤村 衡至	フジムラ コウジ	助教	理学部C棟	103	安東 宏徳	アントウ ヒロリ	教授	理学部C1棟	275		
	植物学	西川 周一	ニシカワ シュウイチ	教授	理学部C棟	219	河口 洋一	カワグチ ヨウイチ	教授	生命環境棟	105	
		酒井 達也	サカイ タツヤ	教授	生命環境棟	703-1	豊田 光世	トヨダ ミツヨ	教授	生命環境棟	105	
加藤 朗		カノウ アキラ	准教授	理学部C棟	215	阿部 晴恵	アベ ハルエ	准教授	農学部	A218		
墨谷 暢子		スミヤ ノブコ	准教授	理学部C棟	108	本間 航介	ホンマ コウスケ	准教授	農学部	A218		
佐渡自然共生 科学センター		安東 宏徳	アントウ ヒロリ	教授	理学部C1棟	275	高津 邦夫	タカツ ナオキ	准教授	生命環境棟	105	
大森 紹仁	オモリ アキヒト	准教授	理学部C1棟	276	大森 紹仁	オモリ アキヒト	准教授	理学部C1棟	276			
生物学プログラム事務室			理学部C棟	208	フィールド科学人材育成プログラム事務室			理学部C棟	111			

注1) ※は副担当教員を表す  
 注2) 「超域」は研究統括機構超域学術院の所属を示す  
 注3) 「共基セ」は研究統括機構共用基盤センターの所属を示す



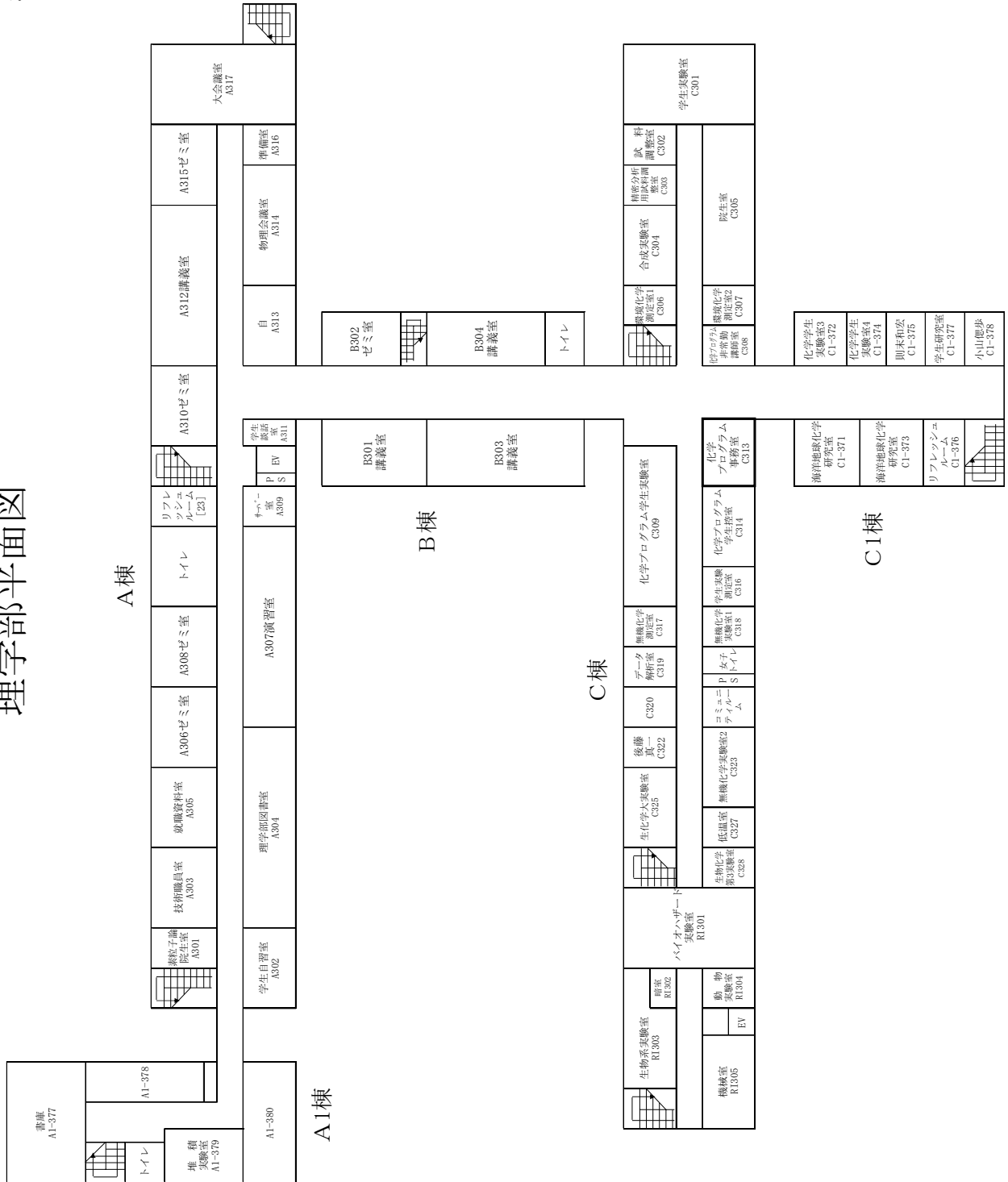
# 理学部平面図

2階



# 理学部平面図

3階









リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。